

## 福島原子力発電所事故の歴史的背景

——前福島県知事佐藤栄佐久氏との対談

はじめに

二〇一二年一月二三日、中京大学の名古屋（八事）キャンパスにおいて、元福島県知事（一九八八年九月一日―二〇〇六年九月二八日）である佐藤栄佐久氏を招いた講演が行われた。

佐藤氏は、一九三九年六月に福島県の郡山で出生し、地元のア積高校を経て東京大学法学部に学び、地元でご尊父の起こされた紳士服会社である三東スーツに入社、地元の郡山青年会議所を地盤に青年実業家として活躍しながら政治家の道を志して、福島ブロック協議会会長や東北地区同会長、日本青年会議所副会頭等を歴任した後に、一九八三年の第一三回参議院議員通常選挙に自由民主党公認で福島県選挙区から出馬し初当選を果たした。中央の政界から福島の地元に戻る契機となったのは、それまで長く県政を担当してきた会津の藩主の子孫で

浅野豊美  
佐藤栄佐久

ある松平勇雄氏が、一九八八年に引退したことで、伊東正義氏や斎藤邦吉氏の支援を受けたことである。参議院議員を辞職して福島県知事選に出馬し当選を果たして以来、四回の当選を続け、二〇〇六年九月に実弟が関与した汚職事件の追及を受けたことを契機に、その当否は問わず県政への影響を考え五期目の任期途中で辞職を表明されている。この事件がいかなるものであったかについて詳細は控えるが、最高裁で確定した「収賄罪は有罪、しかし、賄賂はゼロ円」という論理が自己矛盾であり、何よりも裁判自体が、かつての大阪地検特捜部による郵便不正事件に係わったのと同じ検察官によるねつ造であるという主張を行っている（<http://eisaku-sato.jp/blg/> 著作については以下を参照。『知事抹殺つくられた福島県汚職事件』（平凡社、二〇〇九年九月）、『福島原発の真実』（平凡社、二〇一一年六月））。

本学に、佐藤氏をお招きした際は、年末の多忙なスケジュールが

あつたにもかかわらず、その合間を縫って来て頂き、学生に分かりやすく、福島県の県政の課題と、原子力発端での問題点について話を伺うことができた。

以下のインタビューは、その後に福島県の御自宅にて、地元のリーパー発行者の三田公美子をも交えて行ったものである。

### 1. 六〇年安保闘争の思い出

浅〔浅野豊美〕 この前に中京大で講演を頂いて、郷土というのは百年もしくは千年単位で守ってゆくべきものだと述べておられましたね。原発は三十年間で三度事故を起こしているのに対し、郷土というのは百年、千年単位で守ってゆくべきものだというのを聞きまして、非常に気になるようになりました。佐藤知事は「郷土」に対してどのような思いをかけておられるのか、少年時代からのお話をお伺いしたいです。

浅 三田公美子さんは昭和十七年生まれですか？

三〔三田公美子〕 はい、そうです。

浅 佐藤知事は昭和十四年ですね。

佐〔佐藤栄佐久〕 はい、そうです。三田さんは福女で生徒会長をやつて、三つも下なのに六十年安保のとき……。

三 町へ出たんです、あのとき。

佐 東北の近県の高校の生徒会に呼びかけて、彼女は安保騒動に行っていたんです、高校生の分際で。福女の生徒会長で、福女では馴

らした方です。

浅 私は福高でしたけど、福女には昔そういう威勢の良い生徒会長がいたんですか。

三 ずいぶん昔のことですね。

浅 国会を六十万人で取り囲んだデモ隊の中にですか？

三 いえ、私たちはそんな派手は所にはいいいですよ。

佐 でも、あの頃は高校生でしたが東京には行っていました。

浅 神田の路面の石を外して投げるとかもしましたか？

三 そんなことは……。ただ何となく黙っていられないということで、地元や仙台の高校のみんなと本当に小さなデモ隊を組んだだけです。

浅 その時栄佐久様はすでに大学生だったのですか？

佐 大学生でね、矢吹晋さんと一緒に入学したわけです。彼一浪してね。それで矢吹さんは一番先頭で、竹を繋いだものを持って、スクラムっていうかその竹を持って歩くんですよ。二番目、三番目を私が歩いていて、「毎日」の写真誌か何かの表紙に正面から撮られて写真が出たことがあるのです。が、それを図書館に行つて探したけどありませんでした。まあ矢吹先輩が頑張っていましたから、後ろから付いて行って……。ところが警官がワツと攻めて来ると彼らの逃げ足が速いんですよ。パツといなくなるんです。慣れているから。そんなことで樺美智子かんばさんが亡くなった前後、特に後では何十万のデモが起きましたから、その時は本当にもう寮に帰っても三分の一くらいいしかなかったですね。

浅 東京大学の駒場寮でしたか？

佐 駒場寮です。その時は、警官がだいたい二、三人で逃げていく人の足を捕まえて、堀に捨てられるんですよ。ジャボーン、ジャボーンと。そして怪我したりいろいろいるので、半分は警察に、半分は病院に行ったりしていました。

浅 機動隊がつかんで放り投げるといことですか？

佐 機動隊、これは怖いですね。

浅 随分荒っぽいですね。

佐 機動隊は警視庁の前において、絶対動かないわけですが、たとえば

私の安高の先輩で高校の先生の子供さんがいたのですが……。

浅 六十年安保闘争の目的というのは、アメリカの基地があれば日本も戦争に巻き込まれてしまうから、むしろアメリカの基地がないような中立した日本を実現するということですよ。

佐 そうですね、まさにそういう安保改定についてですよ。

浅 平和に懸ける思いは、特に高校生や大学生であつたからこそ強かつたと思うのですが……。

佐 われわれの大学生の時は、やっぱりこの前の講演でも言ったように、一番はヒトラーとか独裁とか日本の帝国主義とか、ムツソリーニとかいうものに対しての新しい日本をどうするかという部分ですから。教授も全体主義に厳しく、民主主義の守護神でしたね。私は学生運動とか積極的に係わらなかつたのですが、矢吹さんのように周りには、係わつた方がいました。寮にいますと、デモのあとなどみんな逃げ込んで来るところですし、デモのある時

はまさに机とかで入口をガードして入れないようにしたりする時代でしたよ。

浅 駒場寮には、明寮と北寮と中寮と南寮があつたと思うのですが、寮の部屋はどこでしたか？

佐 北寮の一階ですね。

浅 サークルの名前は何ですか？

佐 E. S. S. です。

浅 E. S. S. ですか。私の時にも北寮にE. S. S. がありました。

佐 そうですか。後の寮はあまりイメージがなくて。北寮が一番食堂

に近かつたでしょうか？

浅 そうですね。寮食堂が奥の方にありました。

佐 柔道部にもいっぱい仲間がいたのですが、いつもE. S. S. は

軟弱だとみられていました。

浅 確か日本共産党の民青の部屋も隣にありませんでしたか？

佐 民青はあまり覚えてないですが、当時は私の印象では軟弱の典型とみられていましたね。

浅 北寮というのはそういう活動家の部屋がたくさんあるところで、私の時代には有名でした。

佐 そういう活動は残っていましたか？

浅 私の記憶では、そうした学生がよくビラを撒いていました。学生運動も下火になっていて、余韻が残っている時代でした。私は一九八三年に東大に入りまして、大学院に入つてからは寮にも入つ

て、寮風呂にも入りましたし、寮食堂でも食事をしていました。

佐 私の思い出を言うと、みんな腹が減りますから、私の友人、同級生の特技は、二回食券を使うことでした。食事が終ると一回ボンと赤いハンコ押されます。帰ってきてカミソリで上の赤いところだけうまく削るんです。それでも一回食べに行くという特技を持っていて友人がいました。それぐらいみんな貧乏でしたね。

浅 チケットでしたか？

佐 チケットです。食堂のチケットをおばさんに渡してハンコを押しでもらうんです。ハンコも精々芋版みたいなのでポンポン押していたのですが、そのハンコを押してもらって帰ってきて、もう一回、日毎に押してあるのを削って持って行って食べるのです。

浅 寮は二十四畳あって、普通は四人部屋でしたね。私の時は二人部屋だったので、何人部屋でしたか？

佐 そんなではないですよ。この倍くらい(部屋を見回す)、せめてこれぐらいは最低ありましたね。六、七人入っていました。

浅 私の頃は入寮生が少なかったもので、二人とかで使えました。広かったですね。

佐 豊かな時代になってきたんですね。

浅 畳ベッドで、当時としては珍しいですよ。

佐 畳ベッドなら同じですね。同じ部屋だと思いますが、あの部屋に六、七人はいました。たとえば卒業後外務省に行つてフィリピン大使をしていた浪江出身の荒君という友人にこの前会つていろいろ話したのですが、あの頃は朝起きると自分のズボンがなくなつ

ていることがあったそうです。というのは、日曜に誰かがデートをするのに自分のズボンを履いて行ってしまうのだそうです。なので外に出られなかったという話もしていましたが、そういう意味では皆が経済的には豊かということが全然ない時代でしたね。

## 2. 生い立ちと戦争

浅 いきなり話が六十年安保のときから入ってしまいました。いよいよ子供時代にさかのぼってお話ください。私も福島でしたが、東大に行くということはすごく珍しいこと、あまり無いケースですよ。ですからまたいざ六十年安保に帰ってきますけれども、まずはお生まれからさかのぼってお話し頂きたいと思えます。特に時代の変化と少年時代の自己形成、人格形成を焦点にしてなるべく佐藤知事にお話し頂けるようにお願いします。

佐 私の生まれは郡山なのですが、郡山の地理感はないでしょうが、親父お袋が昭和十年に結婚して開業して、その本家が駅前だったんですね。駅前でお爺ちゃんが民政党と何党、あの頃二つの政党があったのですが。

浅 民政党と政友会ですかね。

三 政友会と憲政会です。

佐 政友会と憲政会。お爺ちゃんがみんなの面倒をみる市会議員で駅前にいて、その頃は親父お袋の話では、まだ八幡様の坂(さくら通り)を上がったあたり家があって開業したわけですから、

時々夜に行くと狸が出ていると、戦前はそういう時代だったそうです。戦争になりました、駅前ビルで企業統合して、軍服というか兵隊さんの洋服を洋服屋さんが企業統合してやっていたわけです。軍隊もそこにありました。

浅 両親のお店は洋服屋さんですよ。

佐 洋服屋です。

浅 売る方ですか？個人へのオーダーメイドですか？

佐 オーダーメイドですが、統合しました。でも私が生まれてすぐ戦争に入りました。そして企業統合と言うのですが、みんな自分の商売よりも統合して駅前で開業しました。そして私が昭和二十四年四月二十九日、郡山が爆撃されたときに私とお袋と弟は馬車で大槻に疎開する途中、開成山の球場も市役所も何もないところまで行ったら、開成山の大神宮の近くで所謂B二十九がいっぱい飛んできて、竹藪に疎開しろと言われたので入って、空の向こうの方にウサギの糞のようなものがボンボンと落ちていたのは記憶にあるんですよ。

浅 六歳ですよ。

佐 満六歳ですね。お袋も一緒だったのですが、今考えますと、お袋は駅前に爆弾が落ちているので父のことが心配だったと思います。

浅 店は破壊されましたか？

佐 深谷パチンコ店というのがありますが、今は何をやっているのでしょうか？

浅 何か地図、紙はありませんか？

佐 駅がありますね。桜通りっていうのがあって、今は大きい四号国道になっていますが、当時はこんなもの：たぶん戦争になってから：当時はサーカスなんかをやっていた大きな通りが今は四号国道です。ここに料理屋なんかに入っていく細い通りがあるんですが、家はここだったんです。だから駅前のね：

浅 商店街はこういう風に並んでいるのですか？

佐 商店街はこれですね、それで四号国道ですから、こっちが八幡様ですね。ここまでは全部、全部っていうか全滅です。燃えましてね、ここ道路があつて、ここが家でしたから。それで駅の東に軍需工場があつてね、爆撃を落した流れ弾がこの辺に全部：

浅 この工場では何を作っていたのですか？戦車とか飛行機ですか？何を作っていたんでしょうか？

三 それはやっぱり日東紡じゃないですか？、軍需用品じゃないですか？女性も随分動員されました。

佐 全ての高校生、当時の中学生、女学生なんか勤労働員で…。

三 みんなバラシユートの布だとか軍服だとか。そうすると栄佐久さんのお家って今の陣屋にあつたんですか？

佐 戦後になり、深谷パチンコ店っていう駅前大通りに面した：

浅 パチンコ店はどこにあつたんですか？

佐 ここです。あとでパチンコ店になるんですね。

三 ここは駅前大通り。

佐 ここがアーケード街で、こここの一本通りが飲み屋街に行くよう  
な…

- 三 ここが陣屋ですよ。
- 佐 今でいうと細い道路なのですが、ここが今の東大銀行ですね。
- 三 ここが私。
- 浅 三田さんの生まれはこの辺ですか？
- 三 私の生まれは福島市ですけど、今住んでいるのは郡山市。子供の頃は駅前に住んでいました。
- 佐 民報新聞の役員のお嬢さんですから。その頃は小学時代ですか。
- 浅 近くにはどんな店がありましたか？
- 佐 町はここだけです。
- 浅 子供のころに遊んだところはどこですか？商店街とか。
- 佐 三田さんは覚えているかもしれないけれど、私はこのまま疎開して…、あと田舎の風景はちょっと覚えているのですが、田んぼで弟を稲藁で編んだ白みたいなものの中に入れて、みんなで畑仕事をしている姿が脳裏にあるくらいです。
- 浅 疎開先では農業をされたんですか？
- 佐 農業しているところに疎開しているわけですから、親父はここに住んでいて、お袋と私は疎開したんです。大概といって今だったら十分ですが、昔は隣の村でした。それで戦争が終わって本宮に疎開したのです。この辺はやられましたから。
- 浅 お家も店も焼けてしまったのですか？
- 佐 いえ、隣まで。間に道路がありましたので、ここまで焼けたんです。
- 浅 店は残ったんですか？
- 佐 店は残ったのですが、地下もありましたから、みんな職員さんは防空壕に入って、親父は金透小学校で演習か何かの…。その頃男は大分少なくなっていたので、そんなことをやりながら爆撃を受けて這いながら…ここまでみなやられました。
- 浅 お父様のお生まれと亡くなった日を書いてもらえませんか？まず、お名前は何といますか？
- 佐 佐藤フサオ〔房雄〕です。
- 浅 どんな字を書きますか？
- 佐 フサは房州の房、オは雄大の雄です。
- 浅 お生まれは何年ですか？
- 佐 明治四十三年。
- 浅 お亡くなりになったのは？
- 佐 両親とも私の事件の前後ですよ。親父は九十八歳で亡くなったんです。ですから平成…二〇〇六年、平成十八年ですね。親父の方が後でしたね、お袋が、事件化したときに亡くなって、すなわち記者が二、三十人家のまわりをとりまき始めてから、葬儀場でも大変でした。…だから二〇〇七年です。お袋が二〇〇六年に弟が何やらやられているときに亡くなって、親父が亡くなったのはその次の年私が逮捕されたあとですね。
- 浅 お母様のお名前は？
- 佐 セツです。
- 浅 お父様とお母様は何歳違いですか？

佐 えっと大正三年と明治四十三年。

浅 四歳違いですか？

佐 そうですね。

浅 ご夫婦に兄弟は何人いますか？

佐 親父の方は四人ですね。お袋の方は六、七人はいたでしょうね。

浅 伯父さん伯母さんの中で親しく付き合っていた方はいましたか？

佐 私が親しく付き合っていたというか、前の本宮の市長の親父が長男、本宮出身ですから。

浅 お爺様が本宮出身で子供達を連れて…

佐 そうです、四百年前に上杉景勝が福島県を一時期、半年くらい支配していた時期がありますよね。そのときに守山藩から小沼伊賀守について伊達政宗から守るため本宮に南町をつくるため移住したんです。伊達と対抗して上杉が会津に築城しようとしていた頃ですね。守山の小沼伊賀守に命じて南町をつくったんですよ。北町っていうのは昔からの古い町で、会津みたいに道路をこういふ「かぎの形につくって本宮に南町をつくったんですね。四百年前に来て、今の市長をやっていた佐藤嘉重、私の従兄弟が十八代目なんですよ。」「かっぱや」嘉吉って言うんです。お爺ちゃんについては「意地っ張り職人」という三田さんが書いた本がありますから、あとで差し上げます。

浅 何の職人ですか？

三 洋服です。

浅 では代々呉服の…

佐 その程度には書いてあるんですが、まあ裕福な本宮の…本宮町と

いうのはご承知のとおり宿場町ですから、まさに女の子を抱えて、田んぼを持って、そしてそれぞれが奥州街道の宿場町の宿屋をやっていたんでしょう。

浅 女の子は酌婦ということですか？

三 要するに宿場町の宿屋ですよ。

佐 郡山もですが、みんな宿場町はそうですから。宿場には北と南の本陣があつて殿様の泊まる場所もありましたが、あとはみんな宿場町は宿屋をやっているわけです。そこで私のお爺ちゃんの兄が…お爺ちゃんが明治十八年生まれですから、明治の初期でしょうね。それが…私の家は本宮町の宿場の…大体何間という長い家ですよ、本宮は全部…たぶん郡山なんかもそうだと思いますが。

それでこの辺に山があるんですよ。今はお墓になっているんですが、この山の一番頂上のところは今一問四方ぐらいの稲荷神社が残っているんです。ここからずっと「かっぱや」の土地だけで家にこられたっていうくらい金持ちではあつたようなんです。ただ、今稲荷神社に行くと、周りが住宅街になってだんだん小さくなつて一坪くらいになっているんですよ。まあそういう稲荷神社がまだあるんですが。

浅 屋号がかっぱやだったんですね？

佐 お暮には代々『合羽屋嘉六』と刻まれています。旅籠でしたが、

お爺ちゃんの兄貴っていうのはそれで贅沢放題して、全部明治に入つて使い果たしてしまつたんです。

浅 お爺様は二男、三男だったわけですか？

佐 二男でしようね。

浅 それで独立して…

佐 独立じゃなくて郡山に…郡山に小野町から出てきた小野屋さんっていうのが

三 呉服屋さん。

佐 いや、小野屋っていうのは紫小野屋とか、何々小野屋とか、今でも力を持っている皆さんがいらつしゃいますが、その小野屋の一つに修行に入ったわけです。

浅 丁稚ですか？

佐 丁稚ですね。結局家は兄がくいつぶして何もなくなつて、修行に入ったんです。その頃磐越西線なんかができる頃、工事のところの仕事ももらつてきて、例えば足袋を作つたり作業着を作つたりという仕事を…お爺ちゃんが一文無しになつて、まあ家だけは残っているんでしょうが、そうやって働いていたわけですね。それが明治十八年生まれのお爺ちゃんです。そのお話は後で差し上げる本にあります。

浅 お爺ちゃんは何年に亡くなりましたか？直接沢山話を聞いたんですか？

佐 実は私が大学に入つてお爺ちゃんの話を書くという約束をしたわけです。大学で留年しました時に、お爺ちゃんと一緒に鎌先温泉に行きまして、その時に約束したんです。留年した私は、一校の同級生の岩波茂雄と華巖ノ滝から飛び込んだ藤村操、それと安部

能成、一校の校長、この三人が同級生なんです。友人藤村操の自殺にショックを受けた岩波茂雄伝を読んで感激しました。彼は藤村操に影響されて、人生不可解なりの詩を読んで野尻湖にこもるわけですよ。私も五月病か何かだったんでしょうが、ただこうやって大学には入つたけれども…野尻湖はご承知のとおり、E・S・Sでも遊んだ経験がありますが、寮があつたんです。

浅 今でもあります。東大の野尻湖寮。

佐 あそこに行つて岩波茂雄は一年間読書三昧というか、まさに人生不可解なりを考えました。それを読んで私も感激して留年したんです。

浅 その時にお爺様からお話を聞いたんですか？

佐 留年してお爺ちゃんと一緒に鎌先温泉に行つて、私は一年間くらいそうしようと思つていたんですが、岩波茂雄のように。でもその当時は豊かな時代になつてしまつていますから、我慢はできなかったですが。そんなこともありましたね。

浅 その時長く話を伺つたんですか？

佐 話を聞いて、「お爺ちゃんの話を書くからね」と言つていたんです。でもその約束が果たせなくて、丁度三田さんが郡山に帰つてきて出会つて、それで三田さんをお願いして…それで伝記が出来る上がつたんです。

三 郡山の空襲つていうのは福島市とは大違いで、本当に駅前から壊滅的に焼けたんです。

佐 壊滅的の丁度端境が家の前なんです。それで親父は家のまえで



ね、男性はいないわけですから、何人か残ったヨーク・ベニマルの親父さんなんかは市役所の職員になってね、もともとは何をやっていったんだっけ？

三 新聞記者。

佐 新聞記者だったんだね、市役所に入る前は。それで私の親父は町内会長やっていたかどうか。それでここで竹槍のエイヤーの演習をこの辺の学校でやっているときに爆撃にあつて、家までようやく這つて帰ったそうですよ。

浅 防空演習ですね、要するに竹槍とか。

佐 はい、演習をやっていたら本物のB五二かB二九が来たんです。

浅 お父様は明治四三年生まれですから当時三五歳ですよ。丁度働き盛りというか、私は四八ですけども、本当にお若い。

佐 兵隊には行っていたんですけどね、検査で体が弱いということとがあり、もう一つは軍服なんかも作っていたので兵隊に行かず残されたようです。当時は女性だけですから、竹槍を持ってエイヤーってやっていたのは…。

浅 当時の郡山の主力産業というのは紡績とか繊維でしょうか？

佐 日東紡はそうですが、もう軍需工場になっていたんでしょね。

小さい町ですから。

浅 福島には中島飛行機の軍事工場があり、信夫山くり抜いて飛行機つくってましたね。

佐 郡山も軍事工場があったから爆撃されたんでしょう。

三 金屋と今の自衛隊のところに二つもありましたから。

佐 金屋にも飛行場あったね。

浅 金屋と信夫山に飛行場ですか？

三 金屋と今の大槻のところですね。昔の軍用道路は「うねめ通り」に名前が変わったけれども。郡山は軍事産業の中心だったんですよ。だからなんだかんだ言つて福島市っていうのは爆撃を受けていないわけ。ギャーギャーみんな騒いでいるけど。駅前辺りは壊滅的な被害を受けたんです。だから栄佐久さんのお父さんはたぶん軍事産業の軍服の方の…そのくらいやってた。

佐 将校の洋服を作っていたんですよ。たぶん。だから将校がいっぱい、今の希望ヶ丘つて名前に変わりましたが、あそこに軍事基地があつたですからね。兵隊や将校がいっぱいたんでしょね。その洋服は作っていたと思いますよ。

浅 今日来る時に自衛隊の基地があるなってナビで気がついたんですけど、あの基地も昔は陸軍の基地だったんですか？

三 そうです。あそこが飛行場だったんです。四十九号線の小野金屋と二か所あつて…。

佐 今の基地は違いますよ。あれは大槻の、私の会社が近くにあつて…、あそこの手前に軍隊の施設があつて、それが戦後に「希望ヶ丘」っていう住宅地になって。

三 今は大きな団地になっていますよ。

浅 いわきには常磐炭鉱で石炭がありますけども、郡山は昔便利な地理上の位置から、いわきと併せて新産業都市に指定されましたけど、炭鉱なんかの思い出はありませんか？郡山とは関係ありませんか？

んか？

佐 炭鉱は全然、遠い離れた町ですよ。

浅 朝鮮人の強制連行の方とかは見たことないですか？

佐 全然そういう思い出は無いですね。戦争の思い出は疎開したときの思い出ぐらいですよ。疎開するときのそれはすごく目に焼き付いているんです。ウサギの糞みたいな飛行機からの爆弾と田んぼの弟の花かごくらいで。終戦後は本宮に疎開して親父が郡山に残って商売してましたから、お袋と一緒に本宮と郡山の間の山まで迎えに来てね、そこで待っているわけですよ。それでリヤカーで親父が帰ってくるわけですよ。自転車にリヤカーをつけて夕日の中を郡山から帰ってくる。毎日その迎えに行つた時のことは覚えていきますよ。

### 3. 少年期と教育―疎開・占領・引揚

浅 いよいよ話をちょっと進めて、占領の時代に入りたいと思えます。まずは戦争に負けたということは少年ながらにわかりましたか？

佐 わからないですね。

浅 父親が悲しんでいたり…

佐 全然ないですね。戦争、飛行機で毎日大変だっただろうとは思いますが、爆撃で家のまわりがそんなになっているわけですから…  
駅前職場の下が防空壕になっていたのは覚えています。

浅 本宮の家というのはどういう家だったんですか？疎開先の家は、

お爺様の家ですか？

佐 いえ、最初は別の家を借りて、疎開した時はどっかの家の…本宮というのは全て長い十間以上のウナギの寝床のような家ですから、たぶん疎開してすぐは十間、二十間の奥の方の家を借りて住んでいて、小学校に入るときはそこだったんです。入ったときは原瀬さんという本宮の名門の方の家でした。クリスチャンと関係があつて、明治時代に内村鑑三が訪ねてきたそうです。本宮には郡山よりも金持ちがいっぱいいて、明治の初期には全国の何とか番付で十番以内は何人も入るような状態でした。その頃は、所謂「山を持っている人が金持ち」だったんです。その後は郡山の橋本家じゃないけれども、二千町歩も田んぼをもっている家が大正時代に金持ちになっていきました。本宮は多分、山持ちがたくさんいて、何人も長者番付に入るといふふうなことだったと思えます。親父が、「あの人は明治時代にすごい金持ちで当時の全国の長者番付に入っていた」なんてことを言いますから。

浅 本宮の小学校はどちらでしたか？

佐 本宮小学校です。

浅 当時ひとつだけでしたか。

佐 はい、ひとつだけです。

浅 学年は何クラスあつたんですか？

佐 四クラスです。

浅 もう新制六三三四の時代ですか？

佐 そうですね。二十一年に入学ですから、二十年の人達は学校で戦

争を経験していますよ。二十一年で新しくなりましたけれども、教科書なんかは二十年の戦争中の教科書をどこから探してきて黒い線が引いてあったけど、それを使ったのを覚えています。誰かから借りてきたというかもらってきてね、上の年の人から。

浅 一クラス四十人ぐらいですか？

佐 いや、六十人ぐらいいましたね。子供は多かったですよね。

六十三人とかそういう思い出があります。

浅 周りは農家出身の子供が大半ですか？郡山で呉服屋さんやっている息子さんが疎開してきたんですから、周りからみれば変わった存在ですよ。

佐 いや、そんなことはないです。

三 郡山が盛んなんでよりも、華の本宮って言って本宮の方がすごかった。

佐 本宮の商店街に田舎もも来たでしょう。川向の白沢には別の小学校があったし、岩根は岩根でそれぞれ、その頃バスで通うような時代ではないですから、それぞれに小学校がありましたから、本宮中心なイメージです。本宮が本家で長男、郡山には次男の父、三男が福島市で開業です。ただ、子供さんは多かったですね。五、六十人で四クラス。

浅 小学校時代特に印象に残っている先生はいませんでしたか？

佐 先生は三年まで女の先生ですね。私は小学校一年の時、そういうことを言っただけですが、私も妹もみな同じような病気にされた

んです。腎臓病が何かだったかの病気にされて、一年生の三学期

は休んだはずですね。そのことと、小学校時代の思い出は四年の時の最後に私は四クラスの三組だったんですよ。あの頃は戦後すぐで先生も安定してなくて、あっちにいなくなったりどうこうというので、組担任の先生がいなくなつて、結局クラスが六十人いるのを、半分は二組と四組に分けられたんです。分けられて二、三日経ってから経緯は覚えていないんですが、私が首謀者でみんな机を持って戻れと言つて三組に戻したことがあるんです。というのは、二組に行つた生徒さんが、私は四組でしたが、依怙鼻息をされたとか先生にいじめられたとか何かあったんですよ。それでその頃から正義感が出てきたと思うんですが、そんなバラバラにされていじめられたのでは、自分たちだけで授業をやるというので、机を持って戻れと言つて教室に戻ったんですよ。それはよく覚えているんです。それが抵抗した最初です。

浅 子供なりの反骨精神ですよ。

佐 そうですね。こっちのクラスの授業を受けていた一人がこっちのクラスに行つたらいじめられたとか何かあったんですよ。とにかく机を持って戻つて自分達だけで授業をやるうと言ひ出して戻つたのを覚えています。したら学校ですから、すぐに先生を探してきたんですけどはならないというので、どこから先生を探してきたんですが、一両日はガタガタしたことがありました。

浅 そういう反骨精神は子供の頃からあったということですね？ガキ

大将という感じですか？

佐 ガキ大将でもないんですが、あの頃は町で遊ぶ時は摩利支天様という広場でいつも集まって遊ぶんですが、その時は年功序列で一年上だったら偉い人でした。そんなことで遊んでいまして、その時は同級生だけです。許せないってことで…。級長クラスの真面目な生徒さんがいたんですが、後のどこかの校長先生の息子さんで、先生の息子さんなので優等生なんですが、私はトップではなかったと思います。二番目ぐらいにはいたんでしょう。しかしそういう動きはしたんだと思います。自分でもよく覚えていますが、とにかく戻ってきて、小さい机を皆で持つて、それは目に焼き付いているんですよ。それで学校で大騒ぎになって先生を探してきたんだと…。

浅 先日伺ったお話で、車の後を追いかけて、排気ガスが良い匂いだからと匂いを嗅いで回ったという体験があるそうですね。小学校は街道に沿っているわけですか？

佐 摩利支天様っていうのは裏にある遊ぶところで、本宮の場合、道路が舗装されていない道路で、思い出すのは進駐軍が一晚そこに車をダーツと並べて、その時は絶対窓を開けないで外を見ては駄目だと言われて、その時は進駐軍が仙台に行く途中でしようね、一晚そこに泊まったことがあるんですよ。とにかく怖いものがあるということ、こっそり覗いたのは覚えてはいるんですが、しかし絶対見てはいけないということでした。アメリカ兵とは別に、その道路でこの前話したように、これは良い匂いでね。舗装されていないんですが一日に何台か通るんですよ。車が来る

と喜んで匂いを嗅ぎながら、後を走ったということは覚えていませんね。

浅 アメリカの兵隊さんからチョコレートやガムをもらったということとは無かったですか？

佐 それは小学校の時うちのお袋が、その時は生きなくてはならないわけですから、本宮から物資を郡山の方へ…。また、今の三万石不二家で商売を満州から帰ってきて…。

浅 どなたがですか？

佐 私のお袋の方の従姉妹が三万石不二家っていうお菓子屋さんなんです。その親父さんは安積疏水の技術屋さんなんです。安積疏水ですからそういう技術で満州に行ったんですね。よく三人の子供を連れて帰ってこられたという状況の中で帰ってきたんです。これは下村満子さんの話にも同じ話があります。とにかく生き別れするしないの状況で、下村さんも偶然ばったり父親と会って、結局一緒には帰ってこられたんですが、そういう悲劇がいっぱいあったんでしょう。三万石の方もそれで帰ってきて、本家が饅頭屋さんとか昔から商売しています。市議員員やりながら。今で言うとまさに困った人のための面倒を駅前で見たいという、そういう流れが三万石の…、三田さんがこの前その伝記を書いたんです。

浅 郷土のいろいろな偉人を次々に伝記にまとめてはいるんですね。

佐 性格も何もそのおばさんは立派な方で、私余談ですが、九段に毎年遺族会の大会で行くんですが、そうすると私は古本屋回るのが

好きですから、昼間一時間あるわけですね。国会議員時代かな。それで行って古本屋を回っていると、「書の本」だけの古本屋があるんです。珍しい店がありますから。それで書の本を探していて、一冊買って、住所を郡山って書いたら、主人が追いかけてきて郡山ですねって言うんです。郡山で三万石の池田さんっていう…私と今の会長は、会長が四月生まれで、私が六月生まれですから、うちのお袋はおっぱいが出なかつたので、三万石の大物母ちゃんがいるんです。

三 池田トシイさん。

佐 その伝記はもし読むと大物のお母さんなんですが、余談ですが、今のヨークベニマルの社長の奥さんがその娘なんです。私のイメージからすると、家がシンシヨを持って、親父が、その前に日本一分店っていうお菓子屋さんがあって、そのお婆さんがそれこそ大物のお婆あちゃん、その姪子が三万石のお母さんで、その伝記を書いたんですが。

三 横井と言います。

佐 その横井のおじいちゃんが市議員、その頃は町会議員でしょうが、本当に面倒見が良いというか、大物なんですよ、みんな。貧乏でありながらもスケールの大きい連中ですから。

三 横井八十吉さんという、また下町の偉人ですね。

佐 その妹でうちの前のお婆あちゃん、それが、不二家のお婆ちゃんとそっくりなんです。その娘が今のヨーク紅丸の社長夫人で、これも大物ですから。まあ余計な話ですが、「しばし中断の

後に再開」

#### 4. アメリカとの出会い、中学転校と大学受験

佐 お菓子屋さんを始めて、物資が何も無いところでお菓子屋やるんですから。そうすると砂糖とか甘いものは無いわけですから…。どういふわけかサッカリンが本宮にはあつたんです。金持ちの町ですから。そこからサッカリンを郡山に仕入れたりして…。さっきの進駐軍の話ですが、私が小学校に入る前ですから、お袋について行くんですね。列車が停まると進駐軍が乗っているんです。その連中がガムとかチョコレートを投げるんですよ。線路の向こう側のホームに。そうすると大人連中が四、五十人ワーツとみんなで投げってきた物を取るんです。子供心に欲しいんですが、子供ですから出来なくて周りで見ていただけだったんですが、郡山の駅でその思い出があります。

浅 駅の待合室とかプラットホームがあつて、電車が停まっている向こう側に投げるんですか？

佐 駅の線路がありますね。ここからじゃないんです。たぶん向こう側から投げてこっちのホームで大人が何十人かで…

浅 反対側に行くんですか？人のいない方に投げるんですか？

佐 いる方に。だから線路が二本ありますね。こっちに列車が停まると、こっちがホームですね。そこを投げて寄越すんです。ホームに待っている人がいますから。それで人がワーツと集まってくる

て。私はその時は何とかと…でも小学生ですからとてもそんなふうには入れなかったです。

浅 大人達が入り込んでいゝるんで、小学生の子供は行きたいんだけど行けない？

佐 大人が一生懸命ガムとかチョコレートとかをね。

浅 大人がちよつと、大人なのにこんなことしてつていう気持ちは…

佐 いえいえ、それはもうそんな時代ですからね。それははつきり覚えてますね。ただ小学校に入る前ですかね。

浅 やがて大学時代 E. S. S. に入るわけですよ。何かアメリカ文化に対する憧れみたいなものが小学校の時の思い出と通じていますか？

佐 いえ、American Law ですから。私のゼミはブレイクニールという東京裁判の弁護人ですから。まあ大体 E. S. S. で、この前も集まりに行つて来たんですが、平凡社の「大陽」の編集をやつていた船曳さんという人に久しぶりに会つたんですが、民俗学だと言われる自分のお母さんの本を二、三日前に送つてきました。民俗学として読んでください、といつてお母さんの伝記を送つてきました。

浅 やがて大学時代そういった形で英語やアメリカの法律に関心を向けるわけですよ。その原点はどういったところにあつたと思えますか？自分の子供時代を振り返つて。

佐 いや、原点というか、その頃はアメリカは大変な…アメリカはすべてでした。珍しいのは高校で私の前の生徒会長だった矢吹晋さ

んくらいで。東大では十五人くらい第二外国語に中国語を専攻したたのがいて、あとはみんなドイツ語かフランス語。…。

浅 ラジオで英語講座がありましたね。

佐 私がなぜ勉強をするようになったのかつていうのは、中学二年のときに本宮から転校したんです。転校前ですが、生徒会長に立候補したら当選してしまつたんです。先生の息子さんも立候補したんですが、その人は小学生時代からずっと級長だつたんですが、その人と私が戦つて、人気は私の方があつたんでしょう。当選したんです、本宮中学で。九月か十月頃当選して、ところが世の中がまだ混乱してましたから。昭和二十八年の十二月に親父の都合で転校したんです。中学二年のそれが私にとっては一つの転機だつたんです。その頃本宮では模擬試験なんかが始まつていました。そうするとその方よりも私の方が上に来るんです。級長で校長先生の息子さんで、小学時代は常に一番ですから、そういうはずはないんですが、私の方が上なんです。親父は本宮は兄貴に任せて郡山で独立することに突然なつたんです。生徒会長になつてすぐですから、今だつたら本宮に中学卒業するまでいるかつていうことだつたでしょうけど、それで郡山に行かざるを得ないつてことで来まして、中学二年生の十二月に来ましたから、年明けた正月の八日、三学期に入ったんです。

これは一つの転機で、郡山に来たらその日のうちにトイレに呼び出されて、二年生から、お前は背も高くて喧嘩も強そうだけど、番長やる気はあるのかと言われて、これはすごいところだなあと思

## 三

A君ね。

京からみんな来まして、「A君がスパイだったね」。

## 佐

二中には一人二人天才みたいな連中がいたんです。その人が何を  
読んでいるかを私の友人のところに報告にくるんです。みんな内  
職しているわけです。授業のときに教科書をここに置いて本を読  
んでいるんです。それ何を読んでいるかを調べさせるんです、私  
の友人がA君に。そうすると、大学受験の参考書、倍数館の「数  
I」とかいう本を読んでいたたり、山貞の英文典という文法の本が  
あるんです。読んでいるのは大学受験の本なんです。私は本宮か  
ら来て素直ですから、そのままそれを受けて、郡山ではだから三  
番なんだと…上二人いるわけです。そうかというので馬鹿に

いました。郡山の二中です。今考えると郡山のその後のヤクザの  
中心のような連中が二中にいて、駅前ですから。その後数年して  
なんとか抗争でやられたとか、友人が先輩から駅で「見ろ」なん  
て言われると、機関銃のような連射するようなのを持っていたり  
とかいう先輩がいるんです。その三年生と二年生の一人か二人、  
いずれ二中の番長になる予定者がいたんでしょう。あそこで殴ら  
れでもしていたら私は別の道を歩んでいたと思うんですが、素直  
に「私はそんな気がないですよ」と言ったら帰してくれたんです。  
そういう経緯が二年生であって、一つは本宮では何もしなくても  
一番だったんですが、郡山で模擬試験を受けたら三番なんです。  
女の人が三番で二人並んでいて、一、二番が男で、郡山はレベル  
が高いなと思いました。笑い話でこの前の日曜、吾妻山の上に東

## 浅

されて、それが私にとっては良かったんですが、その大学受験の  
本を買ってきて、三カ月のうちに、すなわち二年のうちに山貞の  
英文典という本を読んできました。数学も同じように数学  
と幾何ですから、やってしまっただけです。

## 佐

中学生なのに大学受験の本をやってしまったんですね。  
中学二年生ですよ。真面目に計画を立てて、みんなやっている  
という情報ですから、一日に十頁ずつ読もうということ、百日あ  
れば子供時代というのは…。だから野球でも何でも高校生の生徒  
さんが来たときにいつも言うんだけど、あなた方の時代は一日で  
もこうできるんだよっていうことは自分でやってみてそれができ  
てしまうんです、と。だから三年になったら楽ですよ。別に高校  
受験の勉強なんてやる必要もないくらい。あとは高校ですと中学  
で「徒然なるままに」なんてものを暗記してしまっているの、  
高校に入って誰か言える人と言われると言っているんです。そうい  
うのが転機になって、周りにそういう皆さんがいて、それはもう  
彼らは天才ですから。  
三 情報を集約するんですね。  
佐 B君の家の近くに彼は親戚があつて、下宿しているわけです。そ  
こで集まって情報を集めて。こっちはもう田舎から出てきた真面  
目な子供ですから、そのままに受け取って、そのBさんって人は  
天才的な人で、その頃から東京の丸善に本を買い出しに行くん  
です。

三 B君って誰ですか？

佐 シュウちゃんの兄貴。なぜ行くかというと、英語の勉強のために、あの頃は映画のシナリオは丸善に行かないと買えなかったんです。それを読んで、あまり天才過ぎて…私の場合は真面目な学生でその程度の真似しかできなかったですが、私も肩から掛けるカバンを持って丸善に行って本を買ってくるんです。彼は本当に映画館に行つて映画を観て、芸術性もあるし、結論から言うと彼は大学を一橋に行つて、卒業してすぐ結婚して子供さん一人をもうけてすぐに亡くなってしまったんですが。

浅 亡くなったのですか。

佐 まあ天才なんですよ。それでその子供さんが中学一、二年の時に来たから、あなたのお父さんは二年の時こういう本を読んで、と私が一冊買つておいて差し上げましたが。それで私はだまされたようにやっちゃったわけです。

佐 一年間短い文章なんです、私の幼少期からの自伝を載せたいという話があるんで、大体昔のことは忘れていますが、青年会議所の時代から、「東北から光を」とかああいうことを言い出したり、あるいはこの前差上げましたかね？安藤昌益の本。

浅 ええ、頂きました。

佐 ああいう問題も含めて、ずっと前から私のことを知っていますので、私が忘れていたことがあれば…今回の趣旨がはっきりわからなかったものだから。

浅 本宮に疎開していて、戦後になってからお父様の関係で郡山二中

に転校して、転校した先で成績がちよつと落ちたから、地元の人と云われていたBさんがどういふ本を読んでいるかスパイした上で、大学受験の本を三カ月でやつてしまった。

佐 三カ月間で。一月、二月、三月で大学受験の本を計画的にやつちやつたんです。

浅 中学で大学受験の本をやっちゃったという。

佐 亀(亀岡義尚) いや、弟の佐藤祐二さんに話聞いたことあったんだけど、兄貴は喧嘩は強いし、本は斜め読みで全部読みこなしてしまつて…

佐 そういふ伝説はあるんだけど…。

佐 学生の街・高田馬場の私の下宿には、五十人の下宿生がいるんです。それで誰かいいじめられてくるわけです。そうすると、どこの野郎にいいじめられたんだつていうと、あそこの下宿とかアパートとかの奴らしいつていうと、夜中に、五十人の下宿ですからその中には喧嘩の強い連中もいるわけですから、私はそういうのは関係ないんだけど、しかしいいじめられたら許せないということ、そのアパートに行くんです。行つて、どの部屋だつていうことで開けて調べたりしていましたので…。

浅 よく押しかけて行きましたね。

佐 いや、我々の下宿には五十人もいますから。

浅 数で。

佐 それは勿論抑えますけれども、少なくともそういうガラガラしたのも下宿にはいるわけですから、何をやっているかもわからない



ですが。そのうちに一年生がどこかでいじめられて来たなんて言うのと、もう四年生になると牢名主みたいなもんで、それは許せないといっただけ行ったり。

浅 それは駒場寮出た後の話ですね？

佐 駒場寮出て、高田馬場にいました。

三 この前久しぶりに高田馬場に行って全然わからなかったんだよね。

佐 変わっちゃってね。

三 私もわからなかった。

浅 高田馬場は早稲田の学生が多いでしょう？

佐 いや、そうでもないんですよ。私の下宿には早稲田の水泳部も一人いましたけど、下宿には四、五十人いたので大学はいろいろでした。あそこは便利ですからね。

浅 話はまた中学二年にもどりますけども、三カ月間で大学受験の本を二冊も読んでしまうなんて普通はできない…

佐 いや、二冊じゃないです。そこに多分ありますけども、私は娘ら二人には、自分は本当に父親としては青年会議所などで忙しかったので、これを読めといって、例えば「中学時代俺はこれを読んだんだぞ」と言って、読まないといけないの事をしてやっています。ただ今決してその中学二年頃のことは膨らまして言っているんじゃないくて、現実に真面目ですから。A君はやっているんだらうと思っ、特にその天才的な二、三人はやってたんでしようが、私の周りで一緒に遊んでいる連中はそれを一生懸命、

見習おうとしていたんです。今でもその連中で集まって麻雀大会等を月に一回やっているんですが。

浅 彼らはどの参考書を読めば良いか情報はあってもやらなかったわけですよ？

佐 それは分らなかったですね。

浅 でも佐藤さんはやったわけですよ。

佐 本宮から来て真面目ですから、そのまま今日は十頁、十頁、十頁と十日やると百頁終わるんですから、英文典っていうのは三百頁ぐらいですから、最後は十頁どころか…、一番大変なのは十頁ぐらいいまでなんです。単語も一生懸命辞書を引いてやらなくてはならないから。十頁ぐらいいやると、大体単語なんて、あとは非常に楽になります。っていう勉強の方法はどこかで講演しても良いんですが…。

浅 わからない時にぱつと聞ける人がいれば良いんですけど、読んでも読んでもわからないときはどうしていましたか？

佐 それは辞書で…、でも自分の周りにはいるあの優秀だっている人がやっているんですから。それからもう一人、郡山に来た時に先生に紹介されたのは、中学…高校の二年先輩です。私が東大を受ける時のことですが、当時は戦後なので父親がいない人が多かったのですが、自分でお母さんが帰ってくるまでに夕飯を作り、そして何から何までやって。その頃は覚えていますが、ご飯を作るのはこんなに大きな釜なんです。それをお母さんが帰ってくるまでに夕飯の準備しておく訳です。お兄さんは肺病で入院

していると。その人が県のピアノコンクールで優勝したり、文学面では素晴らしいと天才肌の方で、東大受験の時は彼は東大の三年に進級する試験期間でしたが、三畳間の物入れをあけて二人で一カ月生活しました。(しばし、中断)

## 5. 県知事時代の思い出

### — 県立医大・男女共同参画センター・道路

佐 係長で、地方分権の研究会作れと。金賀課長補佐のときかな、町村長と議長と一緒に、「あなた方と私はイコールパートナーですから」と言ったら、「良い言葉ですね」と当たり前前のことを言っているのに、町村と県はイコールパートナーだからと話すと感心していました。

浅 今は当たり前に使われていますが、最初に出したのは…

佐 そう言ったら、良い言葉ですね、と。それからもうひとつそこに例として書いてあるのは、県立医大の看護学部を作ったんです。アメリカで頑張っていた女性を看護学部長にしたんです。県立医大の教授ですね。

浅 それは個人的な人脈で呼んだんですか？

佐 いえ、個人的ではなく…、役人は情報を持っていますから。先進国アメリカで経験した方をと決めたんです。そしたらその先生が、私に五月に学生さんに講演してくれと言うわけです。それで講演しまして、お医者さんと看護師さんというのはイコールパー

トナーですから、上下の関係ではないですからと県立医大で言ったんですよ。反響があるのを当然わかりながら…

浅 その方の名前は何ですか？看護学部を作った時の…

佐 今いますけども、十年ぐらいはやっていますですが…、例えば、基本的な問題として、県と国が一緒になってしまったら、市町村の住民はどうしようもないです。と言ってこの部分を三分ぐらいい喋って、こんな感じで例えばイコールパートナーという言葉だったら、市町村のときこういう話があったと…。福島医大の看護学部を増設した時に、学生さんにそれを言うんですから、先生方あるいは教授にとつては何を言うんだこの野郎と思うね。ただ看護師さんとかの意識は高まりますよ。そういうことがどうしようもない医学部の体質ですから。今でも医大に行くと、看護師の上の方の連中はその頃のことを覚えていてるんですよ。そういう基本的な理念は、例えば役所とかではなくて、私のようにフリーな立場で基本的に考えていますから、言えるんです。金賀君が市町村課長補佐かな、後に出納長になりましたが、あれまでそんなのは当たり前前のことなのに、宴会でそう言ったら、「いやー、良い言葉ですね」というんですよ…

浅 看護師と患者のイコールパートナーが、今度は地方の県と国のイコールパートナーという風に言葉の意味がガラッと変わったんですね。これはすこいですね。発想の起源は病院にあったんですね。

佐 というより、私の原点の基本的考え方なのです。その頃、私は医大に対しては、今だから言うけれども、猪苗代の中学生を盲腸の

手術で失敗したんです。命は助かったけれども、その時医大に何を言ったかというところ、私は設置者なんだと、とにかくカリキュラムを変えろと。そんな盲腸の手術で子供を駄目にするような、何をやっているんだとクレームをつけたんです。カリキュラムを変えろとまで言ったら、大学の自治の問題だとか何とか訳のわからないことを言って、そんなことを知事に口出しされることは無いぐらいの話まで出たと思うけど、それぐらい私は県民のために言わなくてはならないことはボンボン言う。毎日そんなことをやっていたから。実際はそういう一つの事例が出た時にボーンと言うと、彼らは確かに変わってきます。

浅 タイミングを捕まえて理念を語るということですね？

佐 結局タイミングを捕まえてと言うよりは、日本も劣化しているように、一つの事例が出た時にものの判断の基準を言っておかないと、彼らはわからないですから。正しいと思ってやっているんですから。だから看護師は医者に使われるのは当たり前だということとで、まさか看護師と医者がイコールパートナーだなんて医者は思っていないですよ。というようなことをその都度言うわけですから。だから私の言葉のメモが平成十四年十五年だけで二、三十頁あったように、職員からするとフレッシュな言葉が常に出てくるんです。それをメモしていたんですね。それはわからなかったんです。知事が終わってから分かりました。

浅 そのような言葉は知事になる前に読んだ読書から来ているんですか？

佐 読書より物の判断ですから、誰にでも判断できることを言わないだけです。先生だって自分で知事になってやろうとすれば、本当にいい加減なことが常に毎日起きていますから。

浅 平等だとは言うけど、イコールパートナーという英語は出て来ないと思うんですが、アメリカに行って現場を見てその時に。

佐 これはいろいろな経験のなかで、常に、例えば東京青年会議所の理事長をやった方と話していると、我々は商工会議所の家来でも何でもない。その頃中国に友好の船を出していたんです。そしてイコールパートナーというのは彼が中国に船を出す時に、商工会議所と我々は上下の関係ではない。青年会議所というのは独立した組織だということで、中国行きをその頃経済界は反対したかもしれないけど、船を出したんです。それで彼はイコールパートナーだと言いました。だからどこでどう勉強したかというよりは、今までのいろいろな経験の中で、あるいは素晴らしい安岡先生のような方にお会いできたというような。病院に行けば病院の連中がハアアアと思うようなことが安岡先生の書の言葉にはあるんです。病院の新設祝賀会では医者と杏林の話をしました。そうすると五十嵐君はあの時のことを覚えていて、去年か一昨年会いに来てくれたり、下村満子さんのところに入会しました。

浅 下村さんとはいつからのお付き合いですか？

佐 下村さんは、私は素晴らしい人だとは思っていません。それで男女共生センターをどこに造るのかと言ったら二本松のお城、ここが二本松の山なんです。お城があって山で、ここに造るって

うわけです。山を越えてお城に行くんです。ここに高いお城がありますね。それで、ここに男女共生センターをつくる訳です。最初は福島市につくるといわけです。共生センターというのは年配の女性が通うんですから、福島県には車に乗れない人もいっぱいいるわけですから、朝出て、磐西線で郡山に来て、福島まで来ると、一日かかっても帰れないようなところからみんな来るんです。私は福島市に造る必要はないと、せめて福島二本松間だけでも三十分ぐらい、普通の電車なら十五分から二十分だけでも短くなるだろうと。それで二本松に造れというのがまず一つの原点です。それでここ見たら、下村さんの自宅が、あれ千坪くらいあるかな？

三 千坪まで無いけど、八百坪くらいはあるね。

佐 このお城の下に下村さんの自宅があるんです。

浅 発祥の地は二本松なんですか？

三 そうですよ。

佐 はい。家老は全部、私の知っている朝河貫一のおじいちゃんとか、その連中は全部その日に、すなわち落城の日に亡くなっています。私は過去帳まで見えていますから。だからその時に偉い人は皆亡くなっているのです。下村さんのところは、その次の次ぐらいいの家臣だったと思うんです、それで彼女の家はこの辺で千坪までは無いにしても、広大なお城の一角にあるんです。それを私は覚えていました。

それからもう一つは福島県のしゃくなげ大使をやってもらって

いまして、東山のホテルの八階でみんな磐梯山を見て、私も夜だけ合流して喋っていたら、下村さんが何回も出たり入ったりしているんです。なんだいって聞いたら、大阪の太田房江知事の選挙で当選するかどうかその日なんです。それで当選しそうだ、とガチャガチャやっていたんです。それを見ていたので、彼女は赤松さんと二人でWINWINという、とにかくアメリカから帰ってきたとして、女性の政治家を何でもいいから出さなくてという運動をしていました。

赤松さんも外務省か労働省かの時代から私もチラチラ名前を知っていたんですが、それで彼女がそういう動きをしていたのを見て、ここを造るときに彼女の家の前ですから、館長には、我々は「朝日ジャーナル」の年代の人間ですし、最後の編集長だからということも当時の総務部長に言っ、絶対に逃がすな、彼女をお連れしてこいと言ったんです。彼女も泣く泣くまさか都落ちするとは思わなかったでしょうが、ともかくお連れしてきました。第一回目の事業が、学術論文募集で八百万円、彼女に言わせると千万円の懸賞金をつけたんです。

あの女性共同参画は、質素に研究している皆さんです。ところが千万円は、後で聞いたら二百万円予算査定で削られて、八百万円の懸賞金ですから、全国の男女共同の学者の皆様が十人くらいでチームを組んで、当然ですが全国から応募してきました。八百万円ですから。あまり素晴らしい論文なので、八百万円を六百万円と二百万円にしても良いかと尋ねて来たのを覚えています。で

きるならそうしたら良いでしょうと言いました。福島県がまさに共同参画社会の旗手になったんです。だから安倍幹事長には徹底していじめられました。「しばし、来客あり、中断」

佐 天皇陛下に、島根の知事と二人で御進講をしたことがあるんです。その時踏鞴たたらを見つけたんです。県議の宗方君に言われて、あの山を歩けというので、宇津峰から三つの尾根を越えて未来博会場まで歩いたんです。歩くとき近道して、宗方君が一箇所何か見えて、また上になると言うので、回るのが面倒だから林の中を行ってしまえば良いと言って、歩きたしたんです。そしたら黒いものが山の中いっぱい落ちていて、何だと思って見たら、踏鞴のあとの鉄のやまが現われて、それを一つ持って帰ったのですが、まさにあの辺で窯礦をやっていたんですよ。

浅 いつの時代ですか？

佐 霊山がお城でしたから。その頃だと思っんです。

浅 南北朝時代のすごい古いやつですね。

三 いや、中世の南北朝ですよ、霊山は。

佐 その話をしたら、天皇陛下がすかさず「それは霊山ですね」って言われたんです。だから、霊山ではないんです、多分あの山で、確かに宇津峰カントリーを歩くといろいろな史跡があるんだけど、その向こうで踏鞴を使って、鉄を作っていたと思っんです。家にそれを飾ってあるんですが、多分あると思っるのでお見せします。

三 阿武隈山系ではあるんですね。

佐 阿武隈山系です。

浅 霊山から南に下ったところですか？

佐 いえ、そうではなくて須賀川です。多分霊山と戦っていたんです。霊山の勢力かどちらの勢力かはわかりませんが、須賀川の山の上に鉄をやっていた跡がありました。

三 濫觴らんじょう（らんじょう）の舞がありますね。

佐 早く福島ー相馬の高速道路をやらないと。双葉郡は今あいう状況ですよ。しかし、双葉郡が駄目になると相馬も磐城も駄目になります。なぜかという、相馬と福島市というのはあと二十年はトラックもすれ違えない道路しかないんです。三年前倒しと言ったけれど、今後二十年も福島から通じなかつたら。仙台に鉄道で繋がったくらいでは本当に駄目な町になってしまいます。七つの生活圏ということで、わざわざ過疎地をつくらないためにやってきました。そうでないと郡山一極になる可能性が非常に強いんですよ。

三 その方が効率は良いんですよ。

佐 だから双葉郡が駄目になったら、本当に磐城も相馬地方も駄目になるからというのが、私があちこちで今言っていることなんです。あの道路は本当にすれ違えないような道路だから、三年と言わずに、相馬のためには一年でも早くちゃんとした道路を造らな

いと、相馬が駄目になります。

浅 サービスエリアはどこに造るか、もう決まっているんですか？

ネルギーであったり、除染であったり。あそこは多いんですよ、石田地区ってというのは。さかえの桜、霊山・伊達から相馬に行く、あの辺が避難勧奨地点だから。ポツポツポツとですね。あそこを徹底的に除染し、除染で出る落ち葉や枯れ枝をバイオマスエネルギーに転換したり、あるいは平坦で光がすごく良いので再生化エネルギーをやったりしたものです。

佐 道路は周りだけでも早く除染して欲しいです。というのは、二八九号は郡山から都路まで大丈夫なんです。そこから大熊まで何分で行けると思えますか？大熊町まで十五分もかからないで行けるんです。だからそこだけでも早く道路を繋いで、山麓線で桧葉まで早く繋ぐということ。

佐 本当に十kmですから。あそこから浜通りに…桧葉で止まってしまっただけでいいし、山麓線で道路だけでも綺麗にすれば通れるんですよ。そういう意味での基盤というのは、さつき常磐線の話もしたけど、今日は熱海と仙台でも講演してくれという話があるので、そこでも強く経営者に言ってくれと…その組合の新地の跨線橋で助かった三人のうちの一人にも茨城県で会っているんですよ。仙台では三人とも会ってきましたけれども、そういう話をJRの方で組合が一番強いんだから早く言えと言っているんですが、基盤ですよ。（しばし、中断）

## 6. 高校時代

佐 今までの新聞の取材で事故直後、去年の三月は海外からが多かったんですが、新聞の題名だけでも大分変わってきているんですよ。これは大飯原発を再稼働するとき河北新聞と東京新聞に書いています。これはシユピエールの…いろいろ推移、題名だけでも今度海外に行くにあたって資料を作ったりしてみたいんですが。

浅 佐藤さんの国際的なネットワークというのは何時頃から形成されたんですか？最初に外国に行かれたのは何時ですか？

佐 最初は親父が三井物産と協力して大東紡織という会社をつくるということ。ちょうど大学を卒業する頃一人で企業相手に苦労していて、私は就職はある会社に決まっていたんですが、結論としては親父を手伝うことになったんです。その会社の新入社員研修だけは一緒に受けました。それですぐ二月二十二日に親父が会社を創立したので、

浅 何年ですか？

佐 大学卒業の年ですから、昭和三十八年、一九六三年ですね。という経緯でそのまま…郡山には今日も夜集まりますが、楽しい同級生がいっぱいました。

浅 安積高校時代に朝河貫一賞もありましたし、安積高校は英語を…いえ、それはなかったです。

浅 でも朝河貫一の伝統みたいなものは残っていませんでしたか？

佐 伝統より…朝河桜はありましたが、それより樗牛賞と新城賞とい

う…文化系で一番良いのが樗牛賞で、高山樗牛です。私は入学したときに「樗牛の名言である」「吾人は須らく現代を超越せざるべからず」という手ぬぐいを買いました。そのためか、常に現代を超越したことがかりやっていましたから、そのためか、常に現代でいると思っっています。矢吹さんに言わせると「樗牛は駄目だ」と。朝河貫一は立派ですけど、樗牛の日露戦争に対しての姿勢からですが…

浅 高山樗牛も安積高校ですか？

佐 福島第一中学校に入っただけです。米沢から福島に来て、第一中学校が郡山の桑野に移り、安積中学になりましたから、郡山では学ばなかったと思うんですが、高山林太郎〔本名〕は一期生です。ですから、その言葉は案外安積の精神…安積高校からは外交官とか数学者とか、私が出るまで政治家は少なかったです。北海道で安田さんという安積高校出身の代議士が一人いたくらいで、多分他にはいなかったと思います。

会津に行くと思わず「政治家は」会津高校なんですよね。私が浪人中に会津を回って最後に安積高校の同窓会に出る時、一回出て落選中ですから、「会津に行ったら会津中学校出ていないと政治家になれない、しかし、郡山に来ると安積高校出ていると政治家になれない、ということがありますね」と冗談で笑ったりしました。  
〔しばし、中絶〕

## 7. 結婚・家族

浅 奥様は二十三歳、二十五歳からずっとこのお家にお住まいだったんですか？

奥 いえ、最初はアパートでした。

佐 私は今回地震で潰れた商工会館が出来て、結婚式の一号が私共で、誰も入らない時にその部屋を借りたのも一号なんですよ。私の買ってきた当時の安っぽい応接セットなんか、商工会館で写真を撮らせてくれというので撮ったものがマンションの入居者募集に使われたんです。

浅 アパートの部屋の時代から調度品、家具は洋風なものがお好きだったんですか？奥様の趣味ですか？

奥 私は一切関わっていません。

浅 帽子が飾ってあったり、家具が洋風だったり。

佐 政治家の出ならこんな雰囲気の家はつくらなかったですよ。

浅 奥様の意見が通ったような調度品や家具はないですか？

奥 全然ないです。

佐 ここは物置場ですから。

奥 私は何もいらぬです。飾り物が一つとか、何も無い部屋が好きなんです。この頃はあきらめて放ってあるんです。最初はみんな飾ってあるのを片づけていましたけど、今は飾りだけどうぞという感じです。

浅 新婚当初は何をどこに置いたとか、揉めませんでしたか？

奥 当初から主人は家にいませんでしたから。

三 J・C活動で。

浅 青年会議所の…

奥 どこに行っているのか知らないけど。

浅 何時出張で出かけるとか何処に出かけるとかも言わずに出かけるということですか？

奥 言わないです。会社でも何処に行ったか探せというくらいで。ゴルフのバッグがいつも車に積んであるから、今日はゴルフ場かもしれないから探せなんて、会社にも勝手に自分で行かなかつたですし。

浅 携帯電話の無い時代ですから、探すのは大変でしたよね。

三 でも皆J・Cってそうだったよね。

奥 今の人は違うでしょうね。

浅 奥さん同士の親睦会は無かったんですか？

奥 今は出来ているのかもしれないけど、その頃は無かったです。家族会というので一年に一、二回だけあって、その時は連れて行ってもらいましたけど。

浅 奥様はどうやって寂しさを慰めていたんですか？

奥 うちは子供がすぐに生まれましたから、子供を連れてこの人の実家に毎日通いました。

浅 ご実家ではお父様とお母様が孫の面倒を見てくださったんですか？

奥 皆面倒をみてくれるし、可愛がってくれました。今でも笑い話な

んですが、夜中いつ帰ってくるかわからないから、どうやって探すかなと思って押入れに隠れていたんですね。そしたら帰ってきて押入れをサーッと開けるので反対に隠れたら、居ないと思って今度はお風呂場に行つて、お風呂の蓋を開けて覗いて、その後どうするかと思つたら寝ちゃったんですよ。だから私は馬鹿馬鹿しくなつてしまつて。

浅 いなくても良いつてことですね。

奥 そう、いなくても全然心配じゃないつてことですよ。憎らしいですよ？どこかに電話かけるとか。商工会館にいた時ですよ。

三 あれはチサンマンションの次？

奥 最初結婚した時商工会館に住んで、それから子供が三人になったから、チサンマンションが出来るということで…、郡山にマンションが出来て二軒目くらいしら。

佐 あの頃はマンションが非常に理想的なものでしたね。

奥 買った時の契約で二部屋の壁を取り払ってもらつて、子供が三人になったからそこに引越したんです。

浅 失礼ですけど、家計は奥様がちゃんと全責任をもつて、子供の学費とか生活費を支出されていたのでしょうか？

奥 その頃は珍しく、自分がお金をどのように使うかという年間計画というか一生の計画をその時はしたんですよ。

佐 俺が？

奥 そうですよ。今は全然ないですけど。ここでいくらくらい入つて、ここで借金が消えるからこうしようというのを表にその時は書いて



たんです。

浅 奥様と相談してされていたんですね。

奥 マンションを買うのも何を買うのも借金ばかりでしたからね。だから私は全然お金のことは気にしなかったです。

浅 お父様とお母様とは一緒に住まわれたことはないんですか？

奥 ここを父が早くから工場を造るために買ってあったので、この家を造るときに父、母も一緒に造ろうかということでした。

浅 二世帯同居型で造ったんですね。

奥 一緒に住んだ時は私達よりも若かったです。

浅 嫁としてお舅、お姑さんと一緒に生活するのは大変ではなかったですか？

奥 いえ、その頃は毎日毎日通っていて、一緒に住んでいるのと同じ様で、夜寝に帰るだけでしたから。

浅 良い嫁でしたから。今と違って。〔奥様退室〕

## 8. 安積高校と東京初体験

### — ボーイスカウト・美しま構想の起源

浅 安積高校の朝河貫一の話は聞いたことがなかったですか？

佐 いや、朝河桜をチラッと聞いただけくらいでした。ですから朝河貫一の認識よりは高山樗牛、新城新蔵…

浅 新城新蔵というのは？

佐 京都大学の理系の会津出身の物理学者でしたかね？二期生じゃない

いでしょ。一期生が高山樗牛でしたから。朝河貫一賞ができたのは、私が卒業した時…この前の同級会で一人朝河貫一賞をもらったというのがありました。私共は受験で東京に行っていて卒業式にはいなかったのだからなかったのですが。

三 でも栄佐久さん、樗牛賞をもらっているでしょ。

佐 樗牛賞は名誉なことなんですが、親父が代わりにもらったはず。だから朝河貫一賞は卒業した時にできたものだと思います。

浅 それまでは朝河貫一というのは朝河桜では知っていましたが…成績優秀者に樗牛賞が与えられるんですか？

佐 そうですね。文化系が樗牛賞、理科系が新城賞です。

浅 お父様も安高出身なんですか？

三 お父様は卒業証書を代理でもらったということです。

佐 親が代理で名誉にもらったんです。その時私は生徒会長もやったし、皆勤賞とか五つか六つ賞をとったのを全部親父がもらったということなんです。

浅 樗牛賞をもらったということは、ずっと成績はトップで三年間過

ごしたということですか？

佐 模擬試験は良かったです。

浅 もう大学入試のレベルに達しているわけですから。

佐 そうですね。だから安積高校の成績というのは…模擬試験の成績は出しましたが、それは良かったんでしょうね。

浅 高校時代はいろいろなイベントがありませんでしたか？学園祭とかスポーツ大会とか何か印象に残っているものはありますか？

佐 印象に残っているというか、私の選挙でもいろいろ書かれましたが…

三 有名なエピソードですよ。

佐 安積高校から歩いて十分かからないところに開成山球場があって、そこで高校野球の予選か何かがあったんです。応援団は勿論応援に行くんですが、ウィークデーなので応援に行つてはならないというお達しが出ていました。しかし私は生徒会長で応援団長も友人でしたから、学校に行つてから行くと大変だから、その日は学校を休んで家からまっすぐ開成山に行つて応援していたんです。そして三年生全員が一時限か二時限終わったところで、学校から来て応援を始めたんです。どうやら生徒会長が応援に行つているという噂が学校に流れてしまつて、三年生が皆来てしまつたんです。それで結局、私とクラス委員長か何人かが始末書を書かされたのを覚えています。とにかく私の卒業の時は東大の現役の入学者が一番少なくて、二十五%ぐらいだったんです。だから本当に受験受験の時代でした。二年に一度は仮装行列とかのお祭りもあつたんですが、それもやらないですよ。かなりいろいろな形で抵抗しましたが、そんな時代でしたね。

浅 受験競争が過熱していく先駆けの頃ですね。

佐 いえ、過熱の最高の時でしたよ。

浅 集団就職とか金の卵とか、中学生が就職したりとそういう時代ですね。勉強すれば良いところに行けるから進学熱も高まりつつ、という時期ですね。

佐 とにかく一番そういう時代だったんでしょね。

浅 私も福島高校を出て東京に行く時に、まだ新幹線がないですから、急行で四時間かかりました。東京に対する漠然とした憧れみたいなものが田舎の人間にはあると思いますが、そういうものはありましたか？

佐 東京に行つて驚いたのは、受験に行つたことはさつきチラッと話しましたが、私の二中と安積高校の先輩なんです。家が貧しくて、自分で釜で飯を炊いて、お母さんが臨時職員か何かで、お兄さんが肺病でという環境で居ながら、中学時代に作曲コンクールで優勝したり、文学に長けていたり、郡山に来てすぐにこういう先輩がいるから話を聞いてこいと先生に紹介されたのが三本木さんです。建設省に行くことになるんですが、河川法が専門の東大教授の一番弟子でした。役人には向かない学者タイプの人でした。

郡山に来てみたらそういう天才的な人ばかりが周りにいたんです。先程話した鈴木君も文学青年で、当時流行っていた「三太郎の日記」などという、私が読んでもわからないような哲学的な本ばかりが飾ってありましたね。田舎の中学から、二年の終わりごろ郡山に来たら、世界が全然違つたんです。自分ではできるはずだと思つていたのが模擬試験をやつてみたら、こんなことを言うのは良くないけど、女性と同じ三番目なんです。そんなわけで、いろいろと刺激を受けました。

私の大学受験の時に、三本木さんは母親の会社の職員の子供達のための三畳一間の学生寮に住んでいて、来ても良いよと言つて

くれたので、受験で一カ月程お世話になりました。彼も大学の期末試験中だったのですが、私を泊めてくれて、布団部屋を開けて、二人で足を伸ばして寝ました。そして、一番上京して感心したのは、東京はどこに行っても道路がコンクリートだということです。

浅 三本木さんとは同じ学年ですか？

佐 二級上です。

浅 三本木さんが受験するときに高校一年であつた佐藤さんを泊めてくれたんですか？

佐 いえ、私が東大受験のときですから、彼が大学の法学部三年生進級試験のときです。

浅 三本木さんは東大ですか？

佐 東大です。

役人でありながら河川法の教授の一番弟子なんです。彼は建設省にいながら学者でもあつたんです。

浅 丸善の本を買いに東京に行ったと伺いましたが。

佐 はい、ありました。真似してですが。

浅 それが東京を見た一番初めではなかったのですか？

佐 いえ、その前は小学時代に叔父に連れていってもらったことがあります。叔父は親父の妹の連れ合いです、戦前東邦銀行に勤めていて、本宮の会社経営にも携わっていたのですが、東京事情等にも詳しくだったので、小学時代に従兄弟と一緒に連れていってもらいました。東京に行つて後楽園で野球を観て、その近くに知り合い

の印刷屋があつたのでその二階に泊まりました。後楽園を見て、芝生の緑とライトがとても綺麗で東京の素晴らしさを味わったり、それからアイスショーにも連れて行ってもらったこともありました。

叔父さんのお陰で東京に行ったり、登山を好きになったのもそのような経緯がありました。そして小学時代にはボーイスカウトに入っていましたので、夜間行進といつて小さな山を夜中に行進したり、自然と親しむという意味では大いに役に立ちましたし、それ以上にいろいろな訓練もしました。二本松のお城では松の木から松の木までロープを張って渡る訓練とか、それから勉強になつたのは、雪の降る日に公園でテントを張って、寒いからといつて焚火をテントの中でしたら、今で言う酸欠になりました。雪と雨が降っているのにテントの中で物を燃やしたら酸欠になるのは当たり前なんです、そんな経験もしました。

浅 ボーイスカウトに入るといふのはご両親がご決断されたんですか？それともご自分で決めたんですか？

佐 その頃、本宮でボーイスカウトをつくるという話がありまして、中学の先生が隊長になってつくりました。ボーイスカウトが戦後動き出したばかりの頃で、富士・御殿場のキャンプ場まで行つて、三千人で撮った写真を今でも持っています。

三 本宮の方が盛んだったんですか？

佐 本宮ですね。安達第四団なんです。二本松少年隊の關係で二本松が盛んなんです。一団、二団、三団は二本松で、四団が本宮なん

です。その頃福島県全体にボーイスカウトの運動が広まったので、蔵王に行つて木を切つてキャンプ場に行つたり、富士山麓の御殿場に行つたりもしました。だから環境問題などを取り上げることは、そうして自然に親しんだことが原点なんだと思います。

浅 小学校の何年から入っていましたか？

佐 三、四年だったと思います。

浅 お父様が入れると決められたんですか？

佐 そうだと思います。その頃叔父さんが、その子供も安高で同じ学年なんです、その従兄弟と一緒に行動していたので、叔父さんが従兄弟を入れる時に声を掛けてくれたんだと思います。ですから、東京といつて覚えてるのは昭和二十四、二十五年のことでしようが、救急車が夜中ずつと走っているんですね。本宮辺りでは救急車の音は聞いたことがなかったです。

浅 富士山麓にボーイスカウトが全員集結したとき、全国で何人いましたか？

佐 三、四千人の写真を持っていたんですが、無くしていたら、一緒に行つた今女子大の先生でボーイスカウトをしている小熊さんという方がいます。当時小学生は私くらいでしたが、小熊さんもせいぜい中学生くらいでしたが、そのときの写真を持っていてコピーして渡してくれたんです。うちの親父にはそういう感覚がなかったので、叔父さんがアイスショーや後樂園の経験を見せてくれました。

浅 その叔父さんは何と言ってお名前ですか？

佐 佐藤武雄さんだったと思います。

浅 何をやっていた方ですか？

佐 同じような仕事です。

浅 洋服ですか？

佐 本家の方の会社の役員をやっている、独立して同じような繊維の縫製の会社をつくりました。今でも従兄弟がやっています。

三 銀行に勤めていた叔父さんでしょ？

佐 そうです、戦前は東邦銀行に勤めていたんです。それで船引について、戦前は玄葉(米一郎)のお爺ちゃんも絵手紙を書いたりする文化人でしたから、船引の青年運動か何かで東邦銀行にいて、文化的な要素を持っているんです。登山等も会社の連中と連れて行つてもらつたり、山に親しんだというのも叔父さんの関係が多いです。

浅 登山は何人位で行くんですか？

佐 従兄弟とか叔父さんの会社の若い連中とか、皆を連れて登山とはこういうものだといいことを教わりました。その後も登山ではかなり分かったような顔をしていましたが：

浅 今でも登山を続けていらつしゃるんですか？

佐 知事になってからも磐梯山に皆で行こうとか、飯豊山にも田部井さんと一緒に登りました。知事になって磐梯山に行くよと言つたら、かつて私が喜多方青年会議所を拡大しようとした時、裏磐梯の北塩原村から来ていた友人が当時の議長になっていまして、磐梯山は山の上まで村の一部なのに、彼は議長をやりながら一度も

磐梯山に登ったことが無いと言っていましたので、彼も一緒に登ることになりました。その後、裏磐梯を正に彼が守っています。ご承知のとおり、あそこは閉鎖的な水域なんです。ペンションがどんどん建って、どうしようもない汚い水系になっていました。県でも補助しましたが、結論から言うと全水域のペンション等に浄化槽を造らせて、大きな浄化槽を一つ造ったので、あそこ水域は将来的にも綺麗な水になりました。三十億の予算の村が百億の予算を掛けて浄化槽を全部造ったんです。それは彼が議長の時、その後村長になって裏磐梯を綺麗にしようという認識を持って、いろいろな政策をやりましたが、私と一緒に初めて磐梯山に登ったのが原点なんです。それから裏磐梯の環境問題に意識を向けたようです。

〔佐藤氏、立ち上がって紙を取る〕

佐 私をやったことをメモしておいて、実践的の地方自治論に追加していかなくはなりません。裏磐梯の全水域というのは県からも一人職員を出して行ないましたが、全国的にもすごい事業で…それはそうです、三十億の村の予算のところは百億使って浄化槽を造ってしまうわけですから。

浅 百年、千年かけて守るべき郷土の原点というのは、ボーイスカウトや叔父さんに連れられて登った登山だったのですね。

佐 ボーイスカウトのキャンプ等の経験を通して山を知りました。それから今年もお正月には行くんですが、一一五号線に「マウンテン磐梯」というところがあるんです。横向温泉の「中の湯」がうち

の親戚で、親父の従兄弟関係とか郡山の阿部製粉に嫁に来ている親戚なのですが、小学時代の夏場は大体そこに行って、夏休みの何日間を親父らとそこで過ごしていました。今は一番上のホテルマウンテン磐梯に正月は必ず三十一日の夜と一日は行くことにしているんです。その横向温泉に年に一回夏休みに行っては、山で地茸や蕨が採れることを知りました。

浅 ボーイスカウトではいろいろな植物の名前を学んだり、植物を加工して食べたという事は？

佐 我々の頃はそこまで勉強しなかったですが、郡山、本宮に住みながら人よりは自然に多く接していたのは間違いないです。

浅 だからこそ東京はコンクリートで固められた街に見えたわけですね。

佐 いえ、それは素晴らしいと思ったんですよ。東京の私のアパートへは電車を小さな駅で降りて細い道を通るのですが、この辺ではコンクリートなんかないようなところがどこまでもコンクリートなんです。土が見えないんですから。昭和三十三年のことです。そんなことを覚えてくるくらい非常に感激しました。それが悪いと思ったのは後になってからです。私の頃は本宮はコンクリートになっていなかったけど、郡山でも細い道まではなかったです。うちも桑折と飯坂を結ぶ県道がありましたけど、小学校一年生の時はまだ舗装されていませんでした。

三 私も舗装されているのは電車道だけで、電車道から入ると全部土でしたよ。

## 9. 大学とテレビ

## ―カストロ・ユンク「原子力帝国」・会津大学

浅 テレビは何時頃家庭に入ってきましたか？

佐 テレビは安高時代に、家庭ではなく、水郡線沿いが豊かな地域だったのでしょうか。水郡線を通っている連中はテレビを見ていました。

浅 何で水郡線沿線は rich なんですか？

佐 米でしょうね。あるいはその辺の電波が良かったこともあるかもしれません。

浅 関東の電波が入るといことでしょうか？

佐 そうですかね。水郡線沿いの人は早くテレビが入ったんです。ですから、皇太子様と美智子妃殿下の結婚もテレビで観ているはずなんです。我々は見られなかったですね。大学時代、駒場に行く時の渋谷の駅で号外を見ました。

三 あれは昭和三十三年でしたね。私が高校一年でしたから。

佐 いずれにしても、高校時代に水郡線は皆テレビを観ていたんです。

三 福島の家では、テレビは町内に一台位お金持ちの家に入って、力道山の試合なんかも観せてもらったり、紅白歌合戦のときに「失礼します」と観に行ったりしました。うちはラジオでしたから。それでうちにもテレビが来たのは中学校一年か二年だから、昭和三十年、早い方でした。

佐 我々はうちではテレビを見られなかったです。

三 それでも町内の金持ちは持っていましたよ。

浅 水郡線沿線ですか？

三 うちが福島市です。

佐 民報新聞の役員やっていましたから。

浅 福島市ではテレビ放送が始まっていたわけですね。福島市から送ってくる電波は郡山市には届きにくかったかもしれないですね。テレビで見た番組で印象的なものはありますか？美智子妃殿下の結婚は途中だとしても。

佐 美智子妃殿下の御結婚は観たんでしょうね。駒場では観られなかったですが。

浅 キューバ危機は覚えていませんか？

佐 キューバ危機よりも私はチェ・ゲバラに憧れていましたから。去年フランスでセーターを買ってきましたよ。「セーターを探しに退室」カストロ帽とかですね。先程話した五十人位の寮だったんですが、その中には隣の部屋辺りに変わった男子学生がいました、目の周りを化粧しているようなのが一人いました。喧嘩も弱いかもしれない感じだだったので、私が庇っていたら、一度お札に連れていくということで、ソ連の大使館のある狸穴辺りか、六本木の交差点あたりのクラブに行きました。したら綺麗な男連中で、一人は我々の憧れのカストロ帽を被っていたりして、所謂その連中の世界だったんです。

浅 最近の話ですか？

佐 いや、学生時代、寮から出て三、四年頃で高田馬場で幅利かせていた頃です。そこで能登から来た下の学年の学生で、連れて行ってもらったら周りが皆綺麗な男ばかりで、どうも雰囲気がおかしいなと思ったら、話している内容が歌舞伎の俳優が何とかだったので、その世界がわからなくてもそういう連中だなと思ったことがあります。その頃六本木にハンバーガーショップが一店舗できたくらいです。「奥様がセーターを持参」これ見ても皆様わからないでしょうが、今カストロ帽の話をしました。その頃はチェ・ゲバラよりもカストロの方が人気があって、カストロ帽なんかはその連中でも憧れてました。

三 私はカストロよりもゲバラが良いですね。

佐 フランスに行ったらゾクゾクして、つい買ってしまいました。

浅 社会主義への憧れがあったんですか？

佐 社会主義ではなくて、革命ですね。そういう時代でしたね。

浅 最初にゲバラに接したのは高校時代ですか？

佐 大学に入ってから、ゲバラではなくカストロですね。

浅 大学に入ったのは昭和三十三年ですよ。革命真っ盛りの頃ですね。学習会とかサークルはありましたか？

佐 私は学習会を自分でつくりました。毛沢東の「矛盾論」「実践論」の本を買ってきて、希望者を十人くらい集めて学習会をやりました。あまり続かなかったです。

浅 矢吹晋「元横浜国立大学教授」先生はいなかったですか？

佐 矢吹先生は入学の時、第二外国語で中国語を選んだ位です。

浅 矢吹先生はゲバラですか？

佐 いえ、それはわかりません。毛沢東も理想の人物ですから。

浅 毛沢東の革命論やカストロの革命論に惹かれたのはなぜですか？

佐 当時は皆憧れましたよ。震災の現場に入って土日ボランティアで活動している人と二、三日後に会う約束をしていますが、今現場で頑張っている人達にはその年代の人も多いです。今は過去のような活動ではありませんが、福島震災の問題を非常にまじめに考えて現場に入っています。

浅 東大では学習会をやって、E・S・Sにも入って、他にやっていた活動はありますか？授業を熱心に参加する方ですか、それともサークル活動を熱心にする方ですか？

佐 私は半分は留年して家に帰っていました。ですから、真面目な学生ではなかったです。面白いのは、私が留年するとき私の担任で、震災直後取材を受けたシュピーゲルの雑誌で紹介されたロベルト・ユンクという方の本を最初に日本で紹介した原田義人先生というドイツの文学者が、私のことを「一冊の本で学生は留年するほど影響を受ける」と東大新聞のコラムに書いて下さいました。翌年は留年したので他の先生に変わったのですが、この原田先生は私が卒業する頃に亡くなりました。しかし、原田先生はこのとき、ユンクが「原子力帝国」の前に書いた本の翻訳を半分までしていたのです。その後、弟子の方がその本を出版しました。私はシュピーゲルのユンクの「原子力帝国」の古本を買って、いろいろ

るな経緯を調べたらそのことがわかって、原田先生とはそういうことだご縁だということで、感激いたしました。(本を探しに退室)

佐 原田先生が亡くなったのはその後のことで、その経緯はわからなかったのですが、原田先生のクラスとの連中とは卒業後も親しくしていました。しかし、原発の関係で先生とはご縁が深いということがわかりました。

浅 大学時代は広島原爆や原子炉のことに関心は無かったですか？

佐 関心は無かったです。

浅 後から繋がっていることが分かったということですね。

佐 もうひとつご縁があったのは、会津大学を造ろうと東北大学に行ったら、十八世紀の大学を造るようだと課長が怒って帰って来ました。これは大変だということで、初代学長予定者とバークレー校とポロニーヤ大学に行つて学者を集めました。そして帰りがけに初代学長がバークレーで、校是に『for humanity』を入れたと言いました。どうして『for humanity』ですかと聞いたなら、ここにいたオッペンハイマーが一九四一年マンハッタン計画のため、ルーズベルトに呼ばれて喜んでニューメキシコで原爆をつくりました。また、一九三九年には、私が生れた年にドイツと米英が戦争を始めて、四十一年に太平洋戦争になりました。オッペンハイマーは一九四五年七月十五日に原爆を完成して、これで原爆の抑止力で世界に戦争は無くなると喜びました。ところが当時の大統領はトルーマンになっていましたが、完成後一カ月も経たないうちに広島長崎で実験をしてしまいました。会

津大学は世界から学者を集めました。今の大学院の学科長はロシアの学者ですが、当時日本は学科長等の管理職に外国人はなれないと言っていました。学問の世界に国境はないと、外国人を会津大学の責任者にすることもいたしました。

浅 バークレーに行くことになったキーパーソンは誰ですか？

佐 國井先生という初代の学長です。

三 國井先生も同級生ですよ。

佐 同期ですが、彼は東大の三鷹の寮で私は駒場でしたので接触はありませんでした。今では親しくしていますが、彼はコンピューターの研究を東大で一人コツコツとやっていました。そして東大の教授というのは捨て難くて、会津大学へは最後まで来ないと抵抗していたのですが、結局来てもらうことになりました。しかし良い大学になって二期務めました。教授会で追い出されてしまいました。私はコンピューターはデジタル信号なので、言葉は関係なく全部外国人で良いと言いました。その代わり、一、二年のうち英語をネイティブのように話せて論文も書けるようにしなくてはならない、そのためにアメリカから村田先生という女性がトップになり十人のチームを連れて来ました。ところが日本の学者には異常な世界だったので、やはり両方共なじみず追い出されて、村田先生は東京の青山大学に行きました。結局そのような先生は日本のシステムの中に居られないということですね。ただ崩壊しつつあるソ連から三十人の応募がありました。バークレーに行つてオッペンハイマーの存在もわかりました。



浅 結局今会津大学はどなたが中心になって居るのですか？

佐 いえ：教授会では学長は辞めざるを得なくなりました。その後二、三人変わりました。三月二十四日に原子力委員会が意見を聞く会を郡山で開催しました。知人から突然連絡があり行ってみると私でさえわからないかたちで、三、四百人入る会場に二、三十人しか集まっていないのです。私は話のはじめに会津大学の学長に対して「あなたはこういう立場で居るのですか？」と聞きましました。「あなたがそこに居ると言うことは福島県が絡んでいることになりました」と言いました。会津大学は原子力委員長が来ているからといって学長が御側付で来るような、そんな野暮な大学ではなかったはずだと指摘しました。そしたら言い訳をしています。確かに彼は原子力学会のメンバーで、私が原子力学会誌に巻頭言を載せたときに編集をしていたりして、学会で頑張っているのは知っていました。そのような経緯もありましたが、原子力委員会さえそれほど劣化して、こっそりと郡山で意見を聴く会をやっているということが現実起きています。

浅 賛成派の人にしか情報を流さないということですね。

佐 賛成派の人にも流さなかったと思います。言い訳だけはしています。「朝日」だけがその写真を出しました。本当に日本の劣化の象徴です。私が二〇〇四年にものを申した時の委員長がまだやっているんです。

浅 東大時代に話を戻しますが、東大は文科一類法学部ですよ。なぜ留年されたんですか？

佐 所謂なんとか病みたいなものですね。

浅 今から振り返ると原因はどこにあったのですか？

佐 このような本を読んで感激したり…

浅 これを読んで一年間籠って読書をしたという先程のお話に繋がるわけですね。

佐 その程度のことですね。

浅 周りが秀才ばかりでコンプレックスを持ったというわけではないですか？

佐 そのような思いもなかったですね。

浅 大学に入った当初は、自分はこのからどのようなかたちで社会に出ようと思っていましたか？東京に就職するのか、それとも故郷で家業を継ぐのか。

佐 そういうしつかりした考え方はなかったです。今の人生がつまるかつまらないかは別として、目標を持って動いていたら反対につまらない人生になっていたと思います。少なくとも二十数年にわたってやりたいことをして来ましたので。

浅 公務員志望のご友人は多くなかったですか？

佐 高度経済成長に向い始めた時代で、どちらかというと民間の方が多くて、あの時代は公務員というのはあまりなかったですね。確かに大蔵省に一人、通産省に非常に親しい友人が一人行きましました。彼はもう亡くなりましたが、日比谷高校から二浪して入ってきて非常にいい男でした。彼が生きていたらこんなに通産省とやりあわなかったでしょうね。私が留年して一緒になった一級下の

連中は事務次官が三人、知事が二人でこのようなクラスは珍しかったです。民間志向の人が多くて、給料も高かったのだと思います。

浅 クラスはドイツ語クラスですか？

佐 ドイツ語です。

浅 オリエンテーリングで下級生の面倒をみたのですね。その時の一級下のクラスですね？

佐 私はその頃はもう留年していたのでしょね。あまり覚えていません。

三 バンカラだったんですね。

佐 まあ、ふらふらして好きなことをやっていました。何になってどうこうということはなく、目標もはっきり持っていませんでした。

浅 大学の授業の中で特に印象に残っているものはありませんか？

佐 思い出すのは団藤先生です。その先生のお弟子さんに今度の弁護士として参加して頂きました。二十五番教室だったと思います。あとはアメリカン・ローのゼミで、あの頃は英語を喋ることができたなという思い出ぐらいです。

浅 どの先生のゼミでしたか？

佐 東京裁判の日本の弁護士をしたブレイクニーです。その時は英語の授業でしたし、E. S. Sのメンバーでもあったので、当時は英語を聞いてわかっていましたのでしょね。

浅 失礼致しました。E. S. Sは当時何人位いましたか？

佐 寮と通ってくる連中、これは女性も多かったのですが…

浅 東大以外のお茶ノ水女子大とかですか？

佐 いえ、東大だけです。

浅 文三とか理科系の女性ですか？

佐 文三はなく、文一が法律と経済、文二が文学だったと思います。

浅 奥様も英語は話せますか？

佐 いえ、話せないです。

## 10. 繊維産業への関与と中国・伊東正義先生への思い

### — 大学卒業後の青年会議所と世界の視察

浅 最終的に東大を卒業されてから地元に戻られたのですね？

佐 そうです。二月二十二日に親父が会社を創立させて、卒業式が三月一日だったでしょうか、その時は秋ぐらいから物産と大東紡織が出資して会社を設立させるといような話がありましたので、親父は大企業相手に苦労していました。

浅 物産というのは？

三 三井物産です。三東スーツの三は三井なんですよ。

浅 本宮三東スーツ株式会社ですか？

佐 いえ、郡山につくることになって、親父に言わせると、本家の方も、うちの方も、是非ということが入ってきたようです。長男なのでいろいろ聞かされましたが、学生でしたのでよくわかりませ

んでした。

浅 繊維の業界もだんだんと下火になってくる時期ではなかったですか？

佐 そうですね、ただガチャマン景気というのはあつたんです。昭和二十年代に大東紡織等はガチャッと一つ落とすと一万円というような時期でした。今度は繊維が製品に向けて動き出そうとしていて、当時三井物産等では、衣料品の販売会社と物産と織物会社が組んでアメリカへ輸出するといったことが大きな流れとして出てきた時期でした。

三 そういうことが伸び盛りだったんです。

浅 アメリカとの繊維摩擦が起きる前ですね。

佐 繊維摩擦、まさに Trade war という、宮澤さんと私が行った頃は自動車等もそのようになってきましたが、当時繊維はまだそういう時代ではなかったですね。製品にして輸出していました。大東紡織は織物の輸出、三井物産は製品の輸出をしていました。三井物産は関西の方でエフワンという大きな衣料品の会社が出てきて、今度はそれを通して製品を輸出するという、いろいろな動きが出てきました。三井物産等の大きな会社が出資して小さな零細企業と今まで考えなかったことを考え出して一緒にやろうという時代でした。

浅 東京の三井物産ですか？

佐 はい。大東紡織も東京です。大東紡織は私の修行していた頃は、名古屋で紡織の集まっている街に何万坪という敷地があつて、東

京でも広大な土地に会社がありました。鈴鹿にもあつて、私はその工場や名古屋で一カ月程教育を受けました。というわけで、戦前からの財産だけはある会社でした。それが生き残りを懸けて、製品化してアメリカに売ることをはじめました。(三田さん退室)

浅 創立記念日というのは何周年ですか？

佐 うちの会社は、私が卒業する年の二月二十二日に株主総会を開いて会社を創立しました。親父が中小企業までいかない小企業を設立するのに、大企業相手に一、二年苦勞しているのをみていたので…。

浅 その前は洋服屋さんをやっていたわけですか？

佐 いえ、もともと委託加工の事業はやっていたんです。実際に製品を作る方から出発していますから、良い製品を作っているんですが、会社をつくるノウハウが何もないところで、三井物産や大東紡織の大企業相手に新しい企業をつくるということで地元の方では親父一人で頑張っていました。それを見て手伝おうと思いましたが。

浅 委託加工だけしていたところを本格的な会社組織をつくって一流企業相手に商売する体制を整えたということですか？

佐 もちろん販売等は三井物産、紡織会社から織物を仕入れて…

浅 織物を仕入れて製品加工する会社ですね。それを三井物産がアメリカに輸出するということですね。

佐 ですから、アメリカで何が売れるかという市場調査は三井物産の

方でやるし、大東紡織はそういうノウハウまで持っていました。大東紡織そのものも衣料品の会社をつくり始めていたと思います。今考えると中国や韓国に行く仕事ですが、当時は私のような日本人がアメリカに行って修行していました。どのように大量生産をするかというのを学ぶためにバージニア州のリッチモンドに十日位行きました。私自身も法学部出ではありませんが、物を作る科学的なノウハウ等も一応は勉強しました。十年も続きませんでした。弟が入ったりと体制が整いましたので、青年会議所とか社会運動等を行うことができました。

浅 生産性本部とはお付き合いはなかったですか？能率的な技術等は…

佐 勿論そのようなノウハウについて私も勉強しましたし、その頃生産性本部も出来たばかりでしたが、動きがありましたので研修に行かせたりもしました。

浅 お父上の工場には最盛期で何人くらいの女工さんを雇われていましたか？

佐 私はその後離れましたので何人いるかはわかりませんが、少なくとも四、五百名はいたと思います。最後は二、三百人の社員だったと思いますが、知事になってからは自分の会社ではなくなったので、潰れようが潰れまいが一切タッチしないと決めていたので、トラブルになってからは別の話で、弟が逮捕されて、弟と一緒に運営していた先程話したもう一人も自殺未遂でないかわけずから、黙っていたらすぐに潰れてしまう会社です。ですから

私は一日も早く弟を会社に戻さなくてはならないのです。

それと同時に、もうひとつブログにも書きましたが、商工会議所の会頭の関係の会社で強力な私の支持者は、佐久間佳枝という女性検事に「私と戦うということは国家を相手に戦うことだ。明日にでもあなたの会社を潰す」と言われたそうです。その一人ではなく、全県の青年会議所の若手の経営者が皆同じようにやられたのです。明治時代から百年続いた伝統のある建設業の会社の社長と一年後会いましたが、彼も明日会社を潰すと言われたそうです。皆徹底してやられました。逮捕される前から郡山の不動産屋から話が流れてきていましたが、彼らのコメントやどう言われたかということ全部メモで持っています。私の幹事長をやっていた市議会議長は、とにかく「何でも良いから栄佐久の悪口を言ってくれ」と言われて、「悪口が無いから二十年も幹事長をやっているんだ」と怒鳴り合いましたということもありました。だから私は経産省の劣化だけではなく、日本の司法の劣化も知っているのだから戦っていかなくてはと思っています。

浅 弟さんの会社というのは最近までずっと縫製でやってきたのですか？

佐 そうです。

浅 中国や東南アジアと競争しながらやっていくのは大変ではないですか？

佐 ですから中国に会社をつくっているんです。それがうまくいっていません、商工会議所から弟の会社を視察したいと言われまし

た。あちらで千人か二千人の会社をノウハウを教えながらやっています。三井物産が絡んでいるので私はリスクもあり、直接はやるなよと言っていました。

浅 中国人に任せるといふことですね。

佐 三井物産とよく連携を取りながらやれということ。商工会議所の視察に私も一日だけ同行しました。この裁判の話はいくらでも出来るのですが…

浅 弟さんの会社を中心でお願いします。

佐 原発関係の劣化と知事を三人も逮捕した司法の劣化についてはこれからも訴えていこうと思っています。

浅 弟さんの会社はいつ中国に進出したのですか？

佐 私は知事になってからは弟に任せていましたから、いつどうこうっていうことは覚えていません。皆私が全てわかっていると思われています、そうではありません。

ただ注意していたことは、知事というのは権力があり、どうしても利用されることになってしまいうから、県内での販売だけはしてはならないと言っていました。別のことで販売をしようとした時には必要以上に注意していました。例えば金融のことなどは絶対に口出ししないなど、徹底して右左はつきりさせてきました。残念ながら検察側では聞く耳持ちませんでした。私を心から応援してくれて信頼関係のある青年会議所の連中等をいじめてきましたので、こういう立場にもなりました。

浅 日本人を雇っていたらとても労働賃金が高くて衣料品等は勝ち目

がないですよ。ですから中国に進出するのは当然のことですね。

佐 うちには三井物産が絡んでいましたから、三井物産を通してあちらの優良企業と提携してやっただかと思えます。ただ、私は会社の役員会には参議院議員に当選した時だけ、あいさつに参加したのみで、あとは一切会社にはタッチしていません。どんなことがあってもタッチしないという原則でしたし、実際にもそうでした。ですから彼らもごちゃごちゃしているだろうと思つてやってみたら何もないので、結論は収賄額ゼロで収賄の認識もなかったということでした。それでも法律的に有罪にさせられたのです。

浅 参議院議員に出たのは一九八九年くらいでしたでしょうか。

佐 いえ、知事になったのが一九八八年です。ですから八三年ですね。

浅 青年会議所の時代はずっと経営をしながら青年会議所の仕事もしていたのですか？

佐 青年会議所の仕事は忙しいです。特に副会頭とかチクタン〔地区担当常任理事〕になるとほぼ毎日仕事があります。私は県の会長になる前の役員になった時から経営は、会社の連中に任せていました。それまで弟は佐藤被服という別の会社をやっていました、それを参議院議員になる前には一緒にしました。弟と前に話が出たシユウちゃんの二人を中心に行っていました。しかし早く弟が困りました。

浅 一九八五年がブラザ合意で、日本の企業がどんどん海外に出てい

き、日本は労働賃金が高いので中国や韓国の製品と競争しても勝てないのは当然ですよ。

佐 プラザ合意は、中曽根、竹下内閣の頃で、国会議員時代でしたが、

あの頃は毎年できるだけ海外を見ようと思って周っていました。

自民党青年部を連れてイスラエルにも行ったし、宮澤喜一先生とデイヴィッド・ロックフェラーに招待されて、マンハッタンか、ポカンチコ（ニューヨークの郊外）の巨大な私邸でカーター政権時代の全閣僚が集まってお会いしたり、チェルノブイリの頃中曽根首相と東欧諸国を回ったり、ネパールの革命前の国王妃二人とも会いましたし、南アフリカへは麻生会頭（安倍第二次内閣の副総理）と所謂マンデラがまだ牢獄にいる頃行きました。

世界のそのような歴史を知っているので、イラク戦争に反対したのです。ジャマイカに「国際青年の年」（一九八五年）の日本代表で団長として行きました。その時にアラブの義勇兵がアメリカのパズーカー砲を持ってアフガニスタンで飛行機を射ち落としている頃、彼らに会いました。ですからイラクに日本が参戦するなんてことには反対しました。彼らはアメリカに裏切られているからアメリカに対して攻撃したわけですから。そんなこともありましたが、国会議員と知事をやっている時にできるだけ国際的な知見を増やしてきました。

原発の問題はウズベキスタンを見ればわかるように、北海道と同じ位で世界四番目の大きさの湖であるアラル海が、社会主義国になって一〇〇年も経っていないのに、綿工場に皆疎水をつくっ

てアムダリヤとシルダリヤの二本の川の水を使ってしまったから、干上がってしまったのです。それから知事時代に行ったアマゾンでは、地球の酸素の三分の一を作っているのに、一本の道路を作ってしまったからアマゾンの自然がだめになってしまおうとか、…。

佐 フロリダには湿地帯があつたのですが、アメリカが開発しようとして抜いてしまったのです。アメリカが独立して二百二、三十年

経ちますが、フロリダは百から百五十年くらい歴史です。ですから今から、その間に湿地帯がだめになってしまいました。ですから今東西の山脈の穴を埋めて、水管理委員会という州議会よりも強い権限の九人の委員会を取り戻そうとしています。それを現場で見ました。私が百年の単位で猪苗代湖、磐梯山を考えますと言いましたが、二千年前のローマ皇帝のリゾート地であつたコモ湖はあんなに小さな湖ですが今でも綺麗なままです。ということから考えると、一九七九年、一九八六年、二〇一一年と三十二年の間に三回も原子力事故を起こしている原発は、文明的にも問題なのです。決してそれを今やるかやらないかの問題ではなく、そこから出発しないとこの問題は解決できないということが、今もこれからも世の中に訴えているテーマです。

浅 ドイツが倫理委員会です。原発を廃止した、その一言は本当に重い言葉でした。

佐 そのような意味では、日本そのものが末期的な状況にあります。

檢察も含めてですが、表面的に出ている政治の状況を見てもわか

りますが、どうしようもない状態です。本当に大きなうねりができて、良くして行こうと思わない限りおしまいです。私が当選してまだ議会に登院する前の一、二週間の間に伊東正義先生が「あなた達がこれからの中国問題をやるのですよ」といつて中国に行つてわざわざ胡耀邦書記に会わせてくれました。中国から見ると、彼らが言う中華思想はこれなんだとわかりました。確かに北京から見ると、海の向こうの小さな島国が何を言うのかと思つたでしょうが、あの頃伊東先生がお願いされていたのは、六十歳で定年退職した人達を千人単位で連れてきて、その技術を教えてくださいということでした。その頃胡錦濤は中国共産党の青年部の役職でしたが、彼は次の年、何千人かの青年を連れて日本に来ています。それが一九八三年でしたから、まだ三十年です。

浅 その中に胡錦濤もいたのですかね？

佐 胡錦濤はその時青年部長ですよ。その次の年に何千人かの青年を連れて日本に来ました。しかし、あの頃も彼らの言葉の中に出てくるのは中華思想でした。大陸の真ん中、北京にいて日本を見ると本当に小さな島国ですから、こんなに国内がごちゃごちゃしては、いつでも中国にやられてしまいます。そのような認識を持たない政治家はどうしようもないです。でも現実には政局の混乱を見ていると、中国から見たら笑い物のようなことをやっています。人民が日本企業をいじめたり車をひっくり返ししたりしましたが、考えてみたらろくでもない小さな国が、今まで五十年、百年のさばってきたかもしれないけれど、すぐに潰せるよということ

の表われです。

北京に行つて要人にかなり会いましたが、張香山という長征で毛沢東と一緒に歩いた（一時中断）呉学謙という当時の外務大臣、江沢民の前の上海市長、その市長とはまだ上海があれだけ近代化する前に、上海の迎賓館で伊東先生と食事をしました。それから二、三十年の動きをみても、そのときの目でみたものを考えても、今日本がごちゃごちゃやっている余裕はないですね。

浅 伊東正義先生はなぜ中国と人脈を築かれたのでしょうか？

佐 それは大平正芳さんと伊東さんは戦後引き揚げのとき上海にいたのです。それで上海に非常に思い入れが深いと同時に、中国人好みの信頼される人間です。その代わりはつきりものを言います。胡耀邦書記に「あの追放された四人組はどうしていますか？」と普通は政治的に遠慮して聞かないことを聞きました。「今ちゃんと対応して、一級の扱いをしていますから」と言っていました。それぐらいはつきりした人間対人間のつながりも必要なのかと思つて話を聞いていました。

浅 伊東正義先生の当時の人脈が残っていたということですか？

佐 いえ、人脈ではなくて、伊東先生のつくり上げたものです。胡耀邦との対談と、宮澤喜一先生とのデイヴィッド・ロックフェラー訪問報告書、長征に参加した張香山と私の対談は、今でも十年前も二十年前も同じことを言っていて、ブレていないです。時々読み返しては中国はすごい国だなと思います。

〔浅野コメント〕

インタビューでは長時間にわたって、佐藤様より公私の人生をふり返っていただき、貴重な御記憶の数々をひも解いていただいた。そのことに深く感謝申し上げてやまない。また、退席された三田さん、そして佐藤様を紹介いただいた亀岡義尚様にも改めてお礼申しあげる。福島県の復興は、地に足のついたものとして、郷土の歴史の上に、そしてまた、郷土の自然という環境を尊ぶ姿勢の上こそ、成し遂げられなければならない、そんな思いを強く心に与えていただいたように思う。

願わくは、そんな自立への思いが少しでも多くの方に、考え方の違いや、世代・民族・国境の壁を超えて拡がって行って欲しい。せめて、本日のインタビューが、新たな議論を深めていく際の呼び水となってくれることを祈りたい。

最後になったが、講演を実現するにあたりお世話になった大学と関係者のみなさまにも、改めて感謝申し上げます。

連絡先：modernjk@postnifty.jp

これは以下の研究プロジェクトの成果である。

二〇一四年度中京大学特定研究助成費・共同研究（B）

「原子力市民防災学の構築―福島とチェルノブイリの教訓を未来へ―」